西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第8図1	DK-138	1	1次	尖底深鉢	24.0	29.1		1866.0	4/5	10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が多量に混じる	縄文時代前期前葉の無文土器。1号住居北西角の貯蔵穴と思われる138号土坑から出土。口縁部直下に補修孔2ヵ所。内外面とも粗雑なナデ調整。底部先端はわずかに摩滅。土器内面の風化が進んでいる。
第8図2	01住	1	1次	尖底深鉢	28.0			609.0	1/3	10YR2/1	長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子が混じる。繊維が多量に混じる。	12号ピット南側の床面上で出土。胎土に繊維を含む無文尖底土器。器内外面は粗雑な指頭圧痕による調整。
第8図3	01住	2	1次	尖底深鉢	14.0	13.4		198.0	1/2	10YR2/3	長石、石英粒子、乳白色の微小な岩片が混じる。	13号ピット東側の壁沿い、床面上で出土。胎土に繊維を含まない無文尖底土器。口縁部に4単位の突起あり。器内外面は指頭圧痕による調整。
第8図4	01住	5	1次	深鉢				200.0	破片	10YR7/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、赤紫色の微小な岩片が混じる。繊維が少量混じる。	1号住居埋土で出土した格子沈線文を施文した土器破片。口唇部に刻みあり。胎土に繊維を含む。同一個体と思われる土器破片が37号土坑、77号土坑から出土。中越式。
第8図5	01住	4	1次	尖底深鉢				20.0	破片	10YR1.7/1	長石、石英、黒色、赤色鉱物粒子、花崗岩の微小な岩片が混じる。繊維が多量に混じる。	1号住居埋土で出土した無文土器。胎土に繊維を含み、細く浅い沈線による格子状の文様が施文される。
第8図6	01住	3	1次	尖底深鉢				17.0	破片	10YR2/1	石英粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる。	1号住居埋土で出土。胎土に繊維を含み、口縁部直下に粗雑な爪形文が施文される。
第8図7	01住	6	1次	土製円盤	2.8	3.0		10.0		10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。	試掘トレンチで出土。無文の土器破片による土製円盤。胎土質から縄文時代中期中葉の土器破片と思われる。
第10図1	03住	3	1次	尖底深鉢	(21.0)			62.0	破片	10YR1.7/1	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色微小な岩片が混じる。繊維が多量に混じる。	住居中央の埋土下層出土。胎土には繊維が混入。口縁部直下に幅広い凹線状のナデ整形。器内外面に指頭圧痕。
第10図2	03住	2	1次	尖底深鉢				67.0	破片	10YR8/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が多量に混じる。	住居の中央より北側と南側の埋土下層から中層で出土。胴部から口縁部にかけて大きく括れる器形。胎土には繊維が混入し、器内外面には指頭圧痕。
第11図1	03住	1	1次	尖底深鉢	(29.5)			415.0	1/6	10YR2/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が多量に混じる。	38号ピット上の埋土中層出土。器内外面は横方向と縦方向の擦痕と指頭圧痕。器面調整は粗雑で、指頭圧痕により細かな凹凸が著しい。焼成が悪く破断面は黒色だが繊維は混入していない。中越Ⅳ式。
第11図2	03住	4	1次	尖底深鉢				281.0	破片	10YR5/8	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が多量に混じる。	住居中央から北側にかけての埋土上層出土。尖底底部は表面が剥落している。胎土には繊維が混入。器内外面に指頭圧痕。
第11図3	03住	7	1次	深鉢				9.0	破片	10YR6/4	長石、石英、雲母粒子が多量に混じる。器壁内部には雲母が混じらず、器面内外にのみ金色の雲母粒子が混じる。雲母は意図的に器面のみに付着させている。	住居埋土出土。胎土には雲母粒子が多く混入。繊維は混じらない。器内外面に指頭圧痕。
第11図4	03住	6	1次	深鉢				20.0	破片	10YR7/4	長石、石英粒子、花崗岩の微小な岩片、赤灰色で透明感のあるチャートの微小な岩片が混じ	住居埋土出土。胎土には繊維が混入。器内外面に格子目状の沈線。
第11図5	03住	5	1次	尖底深鉢				19.0	破片	10YR7/4	長石、石英粒子が少量混じる。繊維が多量に混じる。	住居埋土出土。胎土には繊維が混入。器外面に波状の沈線文様。
第14図1	05住	5	1次	尖底深鉢				92.0	破片	10YR2/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が多量に混じる。	南西壁際の埋土下層出土。胎土に繊維が混入。器外面は波状と格子目状の条線。中越
第14図2	05住	3	1次	尖底深鉢	(32.0)			502.0	1/6	10YR6/4	長石、石英粒子が混じる。黒色鉱物、雲母粒子がわずかに混じる。繊維が多量に混じる。	22号ピット東側の周溝上、埋土中層出土。胎土に繊維が混じらない無文土器。器内外面は指頭圧痕とナデ調整。

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第14図3	05住	1	1次	尖底深鉢	26.0			1108.0	2/3	10YR7/4	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる。繊維が多量に混じる	17号ピット北50cm程度の埋土上層で出土。胎土に繊維混入。器外面に粗雑な格子目状の沈線。口唇部に刻み。第14図4の関山式土器破片と同一相位、同一地点で出土。
第14図4	05住	2	1次	尖底深鉢				182.0	破片	10YR2/1	長石、石英、黒色鉱物粒子、花崗岩の微小な岩片が混じる。繊維が多量に混じる。	17号ピット北50cm程度の埋土上層で出土。正反の合単節縄文原体による羽状縄文。内面は平滑なナデ調整。関山式
第14図5	05住	4	1次	尖底深鉢				36.0	破片	10YR2/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる。繊維が多量に混じる。	291号土坑上の埋土上層出土。胎土に繊維が混入する無文土器。口縁部に穿孔。器内外面はナデ調整。
第14図6	05住	6	1次	小型深鉢	10.0			44.0	1/8	10YR3/1	長石、石英粒子がわずかに混じる。繊維が多量に混じる。	単節RL縄文地文。内面は非常に平滑なミガキ調整。
第14図7	05住	8	1次	深鉢				62.0	破片	10YR3/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が多量に混じる。	試掘トレンチ出土。胎土に繊維が混入。口唇部に刻み。器外面に格子目状沈線。内面はナデ調整。
第14図8	05住	7	1次	土製円盤	2.6	1.0		10.0		10YR4/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子、花崗岩の微小な岩片が少量混じる。	単節LR縄文地文の土器破片による土製円盤。胎土質から縄文時代中期の所産か。
第19図1	10住	1	1次	尖底深鉢	15.0	18.6		439.0	1/2	10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる。繊維が多量に混じる。	47号ピットと48号ピットの間の埋土下層出土。胎土に繊維が混入。器内外面指頭圧痕とナデ調整。中越式
第19図2	10住	2	1次	深鉢				23.0	破片	10Y2/1	石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が多量に混じる。	胎土に繊維が混入。器外面に波状条線。内面は指頭圧痕。
第19図3	10住	3	1次	深鉢				7.0	破片	10YR6/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる。雲母粒子は器内外面で特に目立つ。	器内外面ナデ調整。中越式
第21図1	12住	7	2次	深鉢				157.0	破片	7.5YR6/8	石英、黒色鉱物粒子が少量混じる。繊維が多量に混じる。	胎土に繊維が混入。口唇部に櫛歯状工具による刻み。口縁部は横位の条線。胴部は縄文地文に半截竹管による渦巻き文。第21図2、3と同一個体。住居中央東よりの埋土中層から下層出土。関山Ⅱ式。
第21図2	12住	3	2次	深鉢				32.0	破片	10YR5/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が混じる。	関山Ⅱ式。器内面は平滑なナデ調整。
第21図3	12住	5	2次	深鉢				18.0	破片	10YR1.7/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる。繊維が混じる。	外面地文は組紐か。内面は平滑なミガキ調整。
第21図4	12住	1	2次	深鉢				31.0	破片	2.5YR5/8	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が少量混じる。	器内外面指頭圧痕とナデ調整。中越式
第21図5	12住	4	2次	深鉢				24.0	破片	10YR4/1	長石、石英、白色雲母？粒子が少量混じる。繊維が多量に混じる。	胎土に繊維が混入。外面は波状条線。内面は指頭圧痕。
第21図6	12住	2	2次	深鉢				20.0	破片	10YR2/1	長石、石英粒子が混じる。黒色鉱物粒子がわずかに混じる。繊維が多量に混じる。	胎土に繊維が混入。器内外面は指頭圧痕とナデ調整。中越式
第21図7	12住	6	2次	深鉢				8.0	破片	10YR6/4	荒い石英粒子が混じる。雲母粒子がわずかに混じる。	胎土に繊維が混じらない。器内外面は指頭圧痕とナデ調整。
第24図1	23住	1	2次	深鉢				30.0	破片	10YR5/3	石英、黒色鉱物粒子、雲母粒子が混じる。雲母粒子は器外面で特に目立つ。	胎土に繊維が混じらない。器内外面は横方向のナデ調整。中越式
第24図2	23住	2	2次	深鉢				24.0	破片	10YR4/2	石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる。繊維が多量に混じる。	焼成粘土塊
第24図3	23住	3	1次	深鉢				11.0	破片	10YR7/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる。繊維が多量に混じる。	胎土に繊維が混じる。内面は丁寧な横ミガキ。関山式
第26図1	17住	1	2次	深鉢	26.8			654.0		10YR3/2	長石、石英が混じる	炉体土器。地床炉に埋設されていたが、土器内外面には比熱風化がみられない。RL単節縄文地文。口縁部押引。橋状把手。胴部は地文の縄文を施文した後に沈線と三角形の印刻で文様を描出し、縄文を磨り消していると思われる。口唇部内面にも施文あり。前期終末、十三菩提式併行期。

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第26図5	DK-185	1	1次	尖底深鉢	13～16	15.5		443.0	3/4	10YR2/1	白色と黒色鉱物粒子が少量混じる。繊維が多量に混じる	3号住居内の貯蔵穴と思われる185号土坑出土。埋土下層の焼土下から出土。口縁部に補修孔。内外面とも粗雑なナデ調整。縄文時代前期前葉の無文土器。
第27図1	06住	1	1次	深鉢				27.0	破片	10YR3/1	黒色鉱物粒子と乳白色の微小な岩片がわずかに混じる	やや肥厚した口縁部と押し引き文
第27図2	06住	2	1次	深鉢				14.0	破片	10YR4/3	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる	内側に屈曲した口縁部と渦巻文
第27図3	06住	3	1次	深鉢				20.0	破片	10YR4/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片が混じる	パネル文土器の胴部破片
第27図4	06住	4	1次	深鉢				17.0	破片	10YR4/4	黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片、暗赤褐色のチャート片が混じる	沈線による文様
第27図5	06住	5	1次	深鉢				15.0	破片	10YR4/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、花崗微小な岩片が多く混じる	竹管による擬似隆帯と沈線による文様
第29図1	07住	1	1次	深鉢	18.4	27.2	9.6	1351.0	4/5	10YR5/3	長石、石英が混じる。乳白色の微小な岩片が多量に混じる。	68号ピット北側の埋土下層で横倒しになって出土。ミズチ文。
第30図1	09住	2	1次	深鉢	36.0			2910.0		10YR4/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	埋甕炉の炉体土器。口縁部上端は交互刺突による擬似的な波状隆線状の刻み。その下は押引文による渦巻き状文様。胴部は隆線貼付による渦巻き文と懸垂文。
第30図2	09住	1	1次	土製円盤	3.2	0.8		13.0		10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が多量に混じ	土製円盤と思われる押引文土器破片
第32図1	14住	1	2次	深鉢	28.0			1980.0	1/3	10YR6/8	石英、白色の微小な岩片が少量混じる	156号ピット出土。胴部上半はRL単節縄文地文と波状沈線。胴部は押引と波状沈線で縁取りされた楕円文とミズチ文。
第32図2	14住	18	2次	小型深鉢	9.0			76.0	1/6	10YR7/4	石英、黒色鉱物粒子が少量混じる。	143号ピット南側の床面で出土した小型土器。隆帯による楕円文と押引文。LR単節縄
第32図3	14住	5	2次	深鉢	(24.0)			186.0	1/6	7.5YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる。灰色、乳白色の微小な岩片が混じる。	151号ピット北側の床面で出土。口縁部には隆帯による楕円文をRL単節縄文で充填。頸部は幅広の縦沈線。胴部は隆帯による三角文と押引文。
第32図4	14住	10	2次	浅鉢				132.0	破片	10YR3/4	石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる。雲母粒子は多量に混じる。	炉の北西、150号ピットと炉の間の床面で出土。波状口縁の深鉢土器。口縁部はRL単節縄文と半截竹管による平行沈線。口唇部に刻み。口縁内面に押引。
第32図5	14住	3	2次	碗	13.6	7.2	4.4	272.0	2/3	10YR3/1	黒色鉱物粒子、赤色、灰色、乳白色の微小な岩片が混じる。	炉の南北の埋土下層と床面で出土した破片が接合。細粒のLR単節縄文地文。口唇部に突起。
第32図6	14住	2	2次	小型深鉢	8.4	12.0	4.5	119.0	1/2	10YR3/1	石英、黒色鉱物粒子、赤色、乳白色の微小な岩片が混じる。	炉南側の床面で出土。隆帯による蛇行垂下文。
第33図1	14住	9	2次	深鉢	44.0			370.0	破片	10YR7/6	石英粒子、灰白色の微小な岩片が多く混じる	炉北西の炉と150号ピットの間の床面で出土。無文の浅鉢。
第33図2	14住	20	2次	深鉢			10.8	1030.0	1/3	10YR7/6	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる。灰色の微小な岩片が多量に混じる	住居中央南寄りの床面出土。低隆帯と沈線によるパネル文。
第33図3	14住	16	2次	深鉢	(20.0)			478.0	1/4	5YR6/8	石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる	住居中央東寄りの埋土下層出土。押引で縁取りされた隆帯による懸垂文。地文は細い斜行沈線。口唇部から垂直に垂下する隆帯は実測図では表現しきれないが、魚の背びれのような隆起がある。
第33図4	14住	12	2次	深鉢	(21.5)			640.0	1/4	10YR5/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる。雲母粒子は器面で特に目立つ	住居中央東よりの埋土下層で出土。隆帯と押引による口縁部文様帯。胴部は無文。
第33図5	14住	4	2次	深鉢	24.0			175.0	破片	10YR3/3	石英、黒色鉱物粒子、灰色、乳白色の微小な岩片が混じる。	炉南の埋土下層出土。非常に細粒なRL単節縄文地文。
第33図6	14住	22	2次	深鉢	(32.8)			912.0	1/3	10YR4/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片が混じる	住居中央の埋土下層出土。口縁部に鍔状隆帯。胴部は垂下隆帯で区画されたパネル

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第33図7	14住	25	2次	ミニチュア土器	3.0	4.8	1.6	32.2	完	10YR6/4	長石、石英、黒色・赤色鉱物粒子が少量混じる	住居東壁沿いの埋土下層で出土したミニチュア土器。
第33図8	14住	15	2次	深鉢	14.0			230.0	1/6	5YR6/8	石英、黒色鉱物、乳白色の微小な岩片が混じる	住居中央南西寄りの埋土下層で出土。口縁部文様帯下端に刻みを入れた隆帯。胴部は刻みを入れた隆帯による渦巻き文と沈線による文様。
第33図9	14住	8	2次	深鉢	30.0			296.0	破片	10YR3/3	石英、赤色と黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片が混じる	炉北側の埋土下層出土。口縁部から斜めに垂下する幅広隆帯には沈線と半截竹管の先端による刺突文。隆帯左右の区画文内はRL単節縄文を充填し、波状沈線で縁取り。
第33図10	14住	11	2次	鉢	(38.0)			880.0	1/6	10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が多量に混じる	住居中央から南寄りの床面から埋土下層で出土。RL単節縄文地文に押引文で縁取りされた隆帯による円文。浅い凹線による逆U字
第33図11	14住	14	2次	深鉢	12.0	15.0	6.5	614.0	1/3	10YR4/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片が多く混じる	145号ピット周辺と156号ピット周辺の埋土下層、145号ピット南に付属した小ピット内で出土。LR単節縄文地文。
第34図1	14住	21	2次	深鉢	(34.5)			3530.0	1/4	10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片が多く混じる	住居中央の埋土下層から中層で出土。胴部は半截竹管による平行沈線。
第34図2	14住	7	2次	深鉢	22.5			146.0	破片	10YR1.7/1	長石、石英、黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片が多く混じる	炉南の埋土中層出土。口唇部に渦巻き状突起。口縁部に鍔状の隆帯。
第34図3	14住	6	2次	深鉢	23.5			155.0	破片	10YR4/3	石英、黒色鉱物、灰色の微小な岩片が混じる	炉上の埋土中層出土。口唇部に渦巻き状突起を乗せた浅鉢。
第34図4	14住	13	2次	深鉢	22.0	14.4	11.0	815.0	1/5	10YR5/3	黒色鉱物、灰色と乳白色の微小な岩片がわずかに混じる	住居中央北寄りの埋土中層で出土。隆帯による蛇体のような懸垂文とパネル文。隆帯上は沈線と押引で装飾。
第34図5	14住	17	2次	浅鉢	37.0			262.0	破片	10YR5/3	長石、石英、灰色の微小な岩片が混じる	14号住居北壁沿いの埋土上層出土。浅鉢口縁部。押圧した隆帯と押引文。
第34図6	14住	23	2次	人面装飾				52.2	破片	10YR4/6	長石、石英、乳白色の微小な岩片が混じる	中期前葉から中葉と思われる深鉢口縁部につけられた人面装飾破片。
第34図7	14住	30	2次	ミニチュア	7.5			20.3	1/6	10YR4/2	灰色微小な岩片がわずかに混じる	パネル文を施文した小型土器。
第34図8	14住	36	2次	深鉢				543.0	破片	10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	RL単節縄文地文と沈線。
第34図9	14住	19	2次	浅鉢				46.0	破片	5YR5/3	長石、石英、黒色鉱物、灰色の微小な岩片が混じる	浅鉢か鉢形土器の口縁部破片
第35図1	14住	34	2次	深鉢				110.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる。雲母が目立つ	RL単節縄文地文と沈線。
第35図2	14住	35	2次	深鉢				130.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる。雲母が目立つ	RL単節縄文地文と沈線。
第35図3	14住	31	2次	小型鉢	9.2			23.2	1/5	10YR2/1	長石、石英、花崗微小な岩片が混じる	無文の小型鉢形土器破片。
第35図4	14住	32	2次	深鉢				30.4	破片	10YR4/2	長石、石英、雲母粒子が混じる	平出3A類の口縁部破片。
第35図5	14住	33	2次	深鉢				25.4	破片	10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	平出3A類の口縁部破片。口唇部突起から垂下する隆帯は欠損。
第35図6	14住	37	2次	深鉢				36.8	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	RL単節縄文地文と沈線。三角形の印刻文。
第35図7	14住	39	2次	深鉢				28.7	破片	10YR2/3	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる。石英と雲母が非常に多い。	半截竹管による集合沈線。
第35図8	14住	38	2次	深鉢				31.4	破片	10YR4/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	半截竹管による平行沈線。
第35図9	14住	40	2次	土製円盤	3.0	1.3		15.0		10YR3/2	長石、石英、黒色鉱物、灰色の微小な岩片が混じる	無文土器破片による土製円盤。
第35図10	14住	26	2次	土製円盤	2.8	0.8		15.3		10YR2/3	長石、石英、雲母粒子が混じる	無文の土器破片を利用した土製円盤。150号ピット南東の床面出土。
第35図11	14住	27	2次	土製円盤	2.5	1.0		8.7		10YR1.7/1	長石、石英、灰色の微小な岩片が混じる	無文の土器破片を利用した土製円盤。
第35図12	14住	28	2次	土製円盤	3.5	1.2		20.0		10YR2/2	長石、石英、雲母粒子が混じる	無文の土器破片を利用した土製円盤。周縁部が風化、磨耗しており、土製円盤かはっきりしない。胎土質から中期初頭と思われる。
第35図13	14住	29	2次	土製円盤	3.5	1.0		21.4		10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	集合沈線文が施文された土器破片を利用した土製円盤。胎土質から中期初頭と思われ

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第35図14	14住	24	2次	土偶				45.2	1/6	10YR1.7/1	灰色の微小な岩片が混じる	住居埋土から出土した土偶胴部破片。正確な出土位置は不明。破片には芯棒痕が観察される。押引による文様。
第39図1	18住	1	2次	深鉢				15.0	破片	10YR4/4	長石、石英粒子が混じる。繊維は混入されていない	埋土出土。出土位置不明。沈線による格子目文。器壁は薄く、胎土に繊維を含まない。縄文時代前期前葉。薄手だが明黄褐色の色調で中越式と思われる。
第39図2	18住	2	2次	深鉢				19.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	埋土出土。出土位置不明。胎土に含まれる雲母は金色を呈する。沈線による文様。中期初頭五領ヶ台式。
第39図3	18住	3	2次	深鉢				22.0	破片	10YR5/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	埋土出土。出土位置不明。パネル文土器破片。中期中葉、藤内式。
第41図1	20住	4	2次	深鉢				627.0	1/7	10YR4/6	石英、雲母粒子が混じる	
第41図2	20住	1	2次	深鉢	20.5			910.0	1/2	10YR5/6	石英、雲母粒子が混じる	
第41図3	20住	2	2次	小型深鉢				29.0	破片	10YR3/3	長石、石英、雲母？粒子が混じる	
第41図4・5	20住	3	2次	小型深鉢				73.0	1/8	10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる。雲母が目立つ	
第43図1	21住	1	2次	顔面付深鉢	18.4			920.0	1/2	10YR2/3	長石、石英、黒色鉱物、灰色の微小な岩片が少量混じる	230号ピット南傍の床面出土。口縁部に円形の人面突起。胴部は三叉文と三角形文。頸部に橋状把手。中期中葉、藤内式。
第43図2	21住	2	2次	深鉢				268.0	破片	10YR3/1	石英、赤色、灰色の微小な岩片が混じる	口縁部にRL単節縄文地文。胴部はキャタピラ文と三角形の押引文。隆帯で三角文。223号ピット南50cmの床面出土。
第43図3	21住	3	2次	人面装飾				7.0	破片	10YR2/2	長石、石英、赤色鉱物、灰色の微小な岩片が混じる	埋土出土。出土位置不明。土器胴部の人面装飾破片。人面の表現から前期の所産か？
第43図4	21住	4	2次	焼成粘土塊				13.0		10YR4/4	黒色鉱物、灰色の微小な岩片が混じる	埋土出土。出土位置不明。焼成粘土塊。
第45図1	25住	11	3次	小型深鉢	11.5	11.5	5.0	152.0	2/3	10YR4/3	乳白色の微小な微小な岩片がわずかに混じる	274号ピットと273号ピットの中間地点の埋土中層出土。RL単節縄文地文。
第45図2	25住	6	3次	小型深鉢	14.0			650.0	ほぼ完形	10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が混じる	273号ピットと274号ピットの中間地点の埋土中層出土。RL単節縄文地文。口縁部の突起から垂下する蛇体風の隆帯文。
第45図3	25住	9	3次	深鉢	(14.0)			200.0	破片	10YR6/6	黒色鉱物、乳白色の微小な岩片が少量混じる	273号ピットと274号ピットの中間地点の埋土中層出土。RL単節縄文地文。
第46図1	25住	8	3次	深鉢	(20.0)			347.0	破片	10YR5/4	長石、石英粒子が少量混じる	273号ピットと274号ピットの中間地点の埋土中層出土。鉢形土器。部分的に朱彩、黒彩が残る。
第46図2	25住	10	3次	深鉢			16.0	1505.0	底部	10YR5/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子、乳白色の微小な岩片がわずかに混じる	273号ピットと274号ピットの中間地点の埋土中層出土。大型深鉢の底部。
第46図3	25住	14	3次	小型深鉢	(11.5)			412.0	2/3	10YR4/4	長石、黒色鉱物粒子がごくわずかに混じる。	274号ピットと273号ピットの中間地点の埋土中層出土。無文の深鉢形土器。
第46図4	25住	12	3次	尖底深鉢	17.5	19.0		515.0	1/2	10YR1.7/1	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる。繊維が多量に混じる。	埋土中から破片で出土した無文の尖底土器。胎土に繊維が混入。口縁部に補修孔。図左側の補修孔は穴が貫通。右側には2ヵ所に補修孔があり、右側の補修孔は貫通し
第46図5	25住	7	3次	尖底深鉢	(32.0)			214.0	破片	10YR1.7/1	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が混じる。繊維が多量に混じる。	埋土出土。出土位置不明。胎土に繊維を含む。内外面無文で、指頭圧痕、擦痕あり。前期前葉。
第46図6	25住	13	3次	尖底深鉢	22.5	29.5		990.0	1/2	10YR6/6	長石、石英粒子が少量混じる。繊維が多量に混じる	埋土中から破片で出土した無文の尖底土器。外面は粗雑な縦方向の指ナデが部分的にあるのみで、無調整に近い。内面は雑な横方向のナデ調整。
第47図1	25住	15	4次	小型深鉢	12.0	18.0	6.6	427.0	1/2	10YR6/8	乳白色と灰色の微小な岩片が混じる	埋土出土。出土位置不明。RL単節縄文地
第47図2	25住	5	3次	深鉢				27.0	破片	10YR1.7/1	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる。繊維が混じる。	埋土出土。出土位置不明。胎土に繊維を含む。外面は細かな爪形文と擦痕。内面は擦痕と指頭圧痕。中越式

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第47図3	25住	3	3次	深鉢				9.0	破片	10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる。繊維が混じる。	埋土出土。胎土に繊維を含む。外面には棒状工具による格子目文。
第47図4	25住	4	3次	深鉢				10.0	破片	10YR2/1	長石、石英粒子がわずかに混じる。繊維が多量に混じる	埋土出土。外面には沈線文。混入繊維により断面は黒色を呈する。
第47図5	25住	1	3次	焼成粘土塊				12.0		10YR1.7/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる。繊維が多量に混じる。	焼成粘土塊。一部に平滑にナデ調整した面あり。
第47図6	25住	2	3次	焼成粘土塊				13.0		10YR6/6	長石、石英粒子がわずかに混じる	焼成粘土塊。
第51図1	26住	1	3次	深鉢	(35.0)			502.0	1/10	10YR4/4	石英、黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片、雲母が混じる。雲母は多くない。	口縁部にLR単節縄文と沈線。口唇部突起からL字形に垂下する刻み目隆帯。頸部は沈線に挟まれた押引隆帯とV字形隆帯貼付文。292号ピット南傍の床面出土。
第51図2	26住	3	3次	深鉢				29.0	破片	10YR2/3	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	27号住居290号ピット南50cmの埋土下層出土。口唇部に刻み。口縁部は内側に折り返すように肥厚。波状口縁に沈線。口縁頂部から垂下する沈線。LR単節縄文地文。
第51図3	26住	2	3次	深鉢	(14.0)			76.0	破片	10YR6/8	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子、花崗岩の微小な岩片が少量混じる	292号ピット南傍の床面出土。口唇部に刻み。頸部に沈線と刺突、橋状把手のような貼付文。胴部は沈線文様と頸部から垂下する逆U字の押引した垂下隆帯。
第51図4	26住	4	3次	深鉢				29.0	破片	10YR3/1	長石、石英、黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片が少量混じる。繊維が多量に混じる。	埋土出土。胎土に繊維を含む縄文時代前期前葉の土器破片。口縁部下にやや幅広で浅い2本の凹線と竹管刺突による円文。内面は指頭圧痕と擦痕。
第53図1	27住	1		深鉢	(32.0)			2160.0	1/4	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる	27号住居の地床炉に埋設された炉体土器。口唇部に刻み。口縁部に半截竹管による縦沈線。頸部は押引文に縁取られた隆帯と退化した橋状把手のような貼付。胴部は半截竹管による逆U字状の文様と縦沈線。強く比熱風化した痕跡は認められない。
第53図2	27住	2		深鉢	(34.0)			156.0	破片	10YR5/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母が目立つ	26号住居埋土下層出土。口縁部に押引隆帯、交互刺突文、沈線を施文した浅鉢破片。
第53図3	27住	3		深鉢				40.0	破片	10YR5/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母が目立つ	27号住居埋土出土。口唇部に刻み。口縁部は沈線と刺突文。
第53図6	26・27住	11		土鈴				9.0	破片	10YR5/3	乳白色、灰色の微小な岩片が混じる	接合面で割れた土鈴破片と思われる土製品。内面はナデ調整と指頭圧痕
第55図1	41住	2	4次	深鉢	28.0			2510.0	3/4	10YR6/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	埋甕。ナデ調整のみの無文の深鉢。胴部で割りとっているが、割れ面は平滑に磨耗して
第55図2	41住	1	4次	深鉢				188.0	破片	10YR4/3	石英、黒色鉱物粒子、灰白色の微小な岩片が少量混じる	石囲炉の掘り方内から出土。沈線による垂下する区画文様と、櫛歯状工具による短条
第56図1	DK-056	1	1次	深鉢	17.5	28.5	12.0	1306.0	1/2	10YR2/3	長石、石英粒子が混じる	浅い土坑の底部からやや浮いて出土。縄文時代中期中葉、藤内式の深鉢。口縁部には「の」の字状に粘土紐を貼り付けた立体的な突起、頸部はキャタピラー文と波状沈線、胴部はキャタピラー文と波状沈線による「みずち文」。胴部器面は指頭圧痕による整形痕が
第57図1	DK-213	1	1次	器台	22.0			1109.0	9/10	10YR3/2	白色の微小な岩片が混じる	7号住居内の213号土坑出土。脚部は欠損。側縁部に4単位と思われるつまみ出し突起あり。脚部にも透かし孔がある。脚部が欠損した割れ面の一部はやや磨耗している。器台表面は中央がややくぼみ、磨耗している。器台の周縁部は磨耗しておらず、土器整形時のミガキ調整が観察される。
第57図2	DK-235	1	2次	尖底深鉢				152.0	破片	10YR1.7/1	長石、石英粒子、白色の微小な岩片が少量混じる。繊維が多量に混じる	縄文時代前期前葉の尖底深鉢の底部破片。外面は擦痕がある粗雑な調整。

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第57図3・4	DK-235	2	2次	深鉢				197.0	破片	10YR5/4	長石、石英、金色の雲母、黒色鉱物のやや大きな粒子が多量に混じる	緩い波状口縁。粘土紐貼付の円文。押引文。集合沈線。口縁部文様帯、頸部にかけての縦位集合沈線、沈線による胴部文様の構成、薄手の器壁などの特徴から平出3類A土器と思われる。胴部文様は五領ヶ台式を、口縁部の円文と押引文は狢沢式以降の勝坂式
第58図1	DK-277	1	2次	小型深鉢	11.0	14.8	6.8	631.0	9/10	10YR4/6	石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる	縄文時代中期中葉、藤内式と思われる深鉢。口縁部は折り返して肥厚させてある。胴部は無文。
第59図1	DK-317	1	2次	把手				64.0	破片	10YR3/2	石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる	縄文時代中期中葉、藤内式と思われるメガネ状突起。
第59図2	DK-317	2	2次	深鉢	13.4	18.8	7.4	560.0	4/5	10YR5/4	石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる。灰白色の微小な岩片が多く混じる。	縄文時代中期中葉と思われる無文の深鉢。口縁部はやや肥厚。胴部は縦方向のミガキ
第60図1	DK-330	1	2次	深鉢				17.0	破片	10YR4/4	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器破片。断面が三角形の低隆帯とRL単節縄文地文。
第60図3	DK-351	1	3次	深鉢			11.0	560.0	1/8	10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が多量に混じる	縄文時代中期中葉、藤内式土器の底部破片。屈折底。RL単節縄文地文に刻み隆帯による懸垂文。
第61図1	DK-358	1	3次	深鉢	(23.0)	(26.0)	11.0	900.0	2/5	10YR3/3	石英、黒色鉱物粒子が混じる	縄文時代中期後葉、井戸尻式と思われる深鉢。RL単節縄文地文。隆帯貼付の円文とJ字懸垂紋。屈折底。
第63図1	02住	1	1次	甑			5.4	171.0	1/8	10YR5/4	灰白色の微小な岩片が少量混じる	住居北壁沿いの埋土上層出土。外面は縦方向のミガキ調整、内面は指とヘラ状工具による横ナデ調整。
第63図2	02住	2	1次	坏				10.4	破片	2.5YR4/8	白色、黒色鉱物粒子が少量混じる	高坏もしくは坏。内外面ともに赤彩。内外面ともにナデ調整。内面は特に丁寧に磨かれて
第63図3	02住	3	1次	高坏	(13.2)			18.0	破片	5YR5/6	白色、赤色、黒色鉱物粒子がわずかに混じる	高坏破片。内外面とも縦方向のミガキ調整。
第65図1	04住	5	1次	甕	(18.6)			13.3	破片	5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	住居南壁沿い、162号土坑上面の床面高で出土。S字口縁甕の口縁部破片。外面は縦方向のハケ調整。内面はナデ調整と指頭圧
第65図2	04住	13	1次	S字甕	17.0			44.6	1/4	7.5YR5/6	長石、石英、雲母粒子が混じる	S字口縁台付甕の口縁部破片。胴部はハケ調整。埋土出土。
第65図3	04住	14	1次	S字甕	(19.0)			173.0	破片	5YR6/8	長石、石英、黒色鉱物、雲母の微小な粒子が少量混じる	S字口縁台付甕の口縁部破片。胴部はハケ調整。埋土出土。
第65図4	04住	9	1次	甕	(20.4)			19.4	破片	7.5YR4/3	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	甕口縁部破片。埋土出土。
第65図5	04住	4	1次	甕				15.0	破片	5YR5/8	長石、石英、黒色鉱物の微小な粒子が少量混じる	住居床面出土。甕口縁部破片。風化のため調整痕が不明瞭だが、外面は縦方向のハケ調整か。
第65図6	04住	10	1次	甕脚部			9.4	41.0	1/6	2.5YR5/8	長石、石英、黒色鉱物粒子、白色の微小な岩片が混じる	台付甕脚部破片。住居床下出土。斜め方向にハケ調整。
第65図7	04住	12	1次	甕脚部			9.0	42.0	1/4	5YR4/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子、白色の微小な岩片が混じる	台付甕の脚部破片。埋土出土。外面は斜め方向のハケ調整。
第65図8	04住	15	1次	小型壺	(12.5)	14.1	5.0	406.0	ほぼ完形	2.5YR5/8	細かな長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。緑色の鉱物粒子がわずかに混じる。	住居北東角の埋土上層で、棚などから転がり落ちたような状態で出土。口縁部が半分ほど欠損。器面は丁寧に磨かれ、体部の底部近くに焼成前穿孔。底部は平坦でなく、くぼんでいる。口縁部は有段口縁風で、ハケケズリ痕のある稜あり。内面はハケケズリ調整。底部に焼成時に生じたヒビ割れがある。
第65図9	04住	3	1次	高坏	(11.0)			25.4	1/3	2.5YR4/8	石英などごく微小な鉱物粒子が混じる	高坏破片。住居南西角、144号土坑上面の埋土下層出土。外面は縦方向のミガキ。内面は風化のため調整痕が不明瞭だが横方向のナデか。二次被熱あり。
第65図10	04住	7	1次	鉢	(15.0)	(6.6)	3.2	24.9	1/4	5YR6/6	石英、黒色鉱物粒子が混じる	埋土下層出土。片口鉢の口縁部と底部の破片。内外面に赤彩あり。

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第65図11	04住	1	1次	高坏脚部			(17.0)	14.6	破片	2.5YR4/8	石英などごく微小な鉱物粒子が混じる	住居南壁沿いの床面出土。外面は縦方向のミガキ調整。内面はナデ。
第65図12	04住	11	1次	甕脚部				31.9	破片	5YR5/8	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が少量混じる	台付甕の底部から脚部破片。埋土出土。胴部は縦方向のハケ調整。
第65図13	DK-153	2	1次	台付甕				47.0	破片	5YR5/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が多く混じる	153号土坑出土。S字口縁台付甕の底部から脚部にかけての破片。縦方向のハケ調整。
第65図14	04住	2	1次	坏				8.1	破片	2.5YR5/8	白色、赤色、黒色の鉱物粒子が混じる	住居埋土出土。外面下半は縦方向のミガキ。内面みこみ部は放射状のミガキ。
第65図15	DK-153	1	1次	小型土器	6.2	5.0	4.0	112.0	完形	10YR5/4	白色、赤色、黒色の鉱物粒子がわずかに混じる	4号住居貯蔵穴と思われる153号土坑で出土した小型土器。手捏ね成形で外面は粗雑なミガキ調整。
第65図16	04住	8	1次	小型鉢				8.1	破片	10YR5/6	灰白色の微小な岩片が少量混じる	縄文時代中期中葉の小型深鉢破片。
第68図1	11住	1	2次	甕	(10.0)			16.2	破片	2.5YR4/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	小型甕口縁部破片。
第68図2	11住	2	2次	高坏			(13.0)	12.2	破片	10YR4/6	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる	高坏脚部破片。
第68図3	DK-227	1	2次	高坏	(13.2)			111.0	1/2	5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる	11号住居の貯蔵穴と思われる227号土坑出土。内外面ともミガキ調整。赤彩されていないが、赤く焼成されている。
第68図4	11住	3	2次	深鉢				35.0	破片	7.5YR4/6	石英、雲母粒子が多く混じる	縄文時代後期初頭、称名寺式土器と思われる胴部破片。RL単節縄文。
第68図5	11住	4	2次	土製円盤	3.6	0.6		6.0	1/2	7.5YR5/6	長石、石英、雲母、黒色鉱物粒子が混じる	縄文時代の土器破片を加工した土製円盤。
第71図1	13住	3	2次	S字甕	(19.0)			11.0	破片	5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる。灰色の岩片(頁岩か)が混じる	S字口縁台付甕の口縁部破片。胴部はハケ調整。
第71図2	13住	2	2次	壷	(15.0)			14.2	破片	7.5YR5/6	長石、石英、黒色と赤色鉱物、雲母粒子が混じる	壺口縁部破片。口唇部は櫛歯状工具の押引きによる刻み。頸部に断面三角形の隆帯と口唇部と同様の刻み。器面は縦方向のミガ
第71図3	13住	1	2次	坏	(13.0)			20.7	破片	10YR4/8	石英、白色と黒色鉱物粒子が混じる	内外面ともミガキ調整、赤彩。
第75図1	24住	3	3次	S字甕	12.0			94.0	破片	2.5YR3/2	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	床面と372号土坑埋土出土。S字口縁台付甕の口縁部破片。外面はハケ調整。
第75図2	24住	6	3次	S字甕	12.2			143.0	1/5	5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	372号土坑傍の床面出土。外面はハケ調整。
第75図3	24住	1	3次	S字甕	(11.8)			55.0	1/7	10YR4/1	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	S字口縁台付甕の口縁部破片。口縁部のS字はかなり直線化している。胴部はハケ調整。埋土出土。
第75図4	24住	9	3次	S字甕	(15.2)			48.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	埋土出土。S字口縁台付甕の口縁部破片。外面ハケ調整。
第75図5	24住	4	3次	小型壷	(9.9)			112.0	1/4	5Y4/1	白色と黒色鉱物の微小な粒子が少量混じる	埋土出土。外面と口縁部内面はミガキ調整。
第75図6	24住	10	3次	坏	(16.2)			19.0	破片	5YR5/6	白色と黒色鉱物の微小な粒子が少量混じる	坏口縁部破片。口縁部と頸部はナデ調整。胴部はケズリ調整。口縁部内面は斜め方向のミガキ調整。
第75図7	24住	7	3次	台付甕	(26.0)			106.0	破片	5Y4/1	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	埋土出土。胴部ハケ調整。口縁部内面は横方向のミガキ調整。口唇部には浅い凹線状の整形が施されている。
第75図8	24住	8	3次	坏				14.0	破片	5Y5/2	白色と黒色鉱物の微小な粒子が混じる	埋土出土。坏口縁部破片。内外面とも斜め方向のミガキ調整。
第75図9	24住	5	3次	高坏	12.2			115.0	1/3	5YR5/6	白色と黒色鉱物、雲母の微小な粒子が混じる	床面と372号土坑埋土出土。内外面ともミガキ調整。
第75図10	24住	2	3次	高坏	10.2			77.0		5YR6/8	赤色鉱物粒子、白色の微小な岩片が少量混じる	埋土出土。身部外面はロクロナデとヘラ削り状の調整。内面は、ロクロナデと放射状ミガ
第76図1	30住	2	4次	S字甕				7.0	破片	5YR6/8	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	S字口縁台付甕の口縁部破片。
第76図2	30住	1	4次	高坏			(17.0)	30.0	破片	5YR5/8	長石、石英、黒色鉱物の微小な粒子が混じる	高坏脚部破片。外面は縦方向のミガキ調整。内面はナデ調整。
第78図1	32住	1	4次	S字甕				6.0	破片	7.5YR6/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	S字口縁台付甕の口縁部破片。
第78図2	32住	3	4次	高坏				13.0	破片	7.5YR6/8	長石、石英、黒色鉱物、雲母の微小な粒子が混じる	高坏脚部破片。外面は縦方向のミガキ調整。住居北東角の386号土坑出土。

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第78図3	32住	2	4次	小型壺			(4.8)		1/3	5YR4/8	長石、石英、赤色と黒色鉱物粒子が混じる	外面は縦方向と横方向のミガキ調整。底部まで丁寧に磨かれている。赤彩していないが、赤く焼成されている。
第79図1	33住	1	4次	高坏			(15.2)	25.0	破片	5YR4/8	白色と黒色鉱物の微小な粒子が混じる	高坏脚部破片。外面は縦方向のミガキ調整。赤彩していないが、赤く焼成されている。
第79図2	33住	2	4次	坏	15.4	8.9		214.0	2/3	10YR8/4	長石、石英の大き目の粒子、黒色鉱物、雲母粒子が多量に混じる	やや大ぶりな坏。器面が風化。外面は縦方向のミガキ調整。口縁部内面は横方向のハ
第80図1	34住	2	4次	甕				33.0	破片	10YR6/4	長石、黒色鉱物粒子、白色の微小な岩片が混じる	甕口縁部破片。外面は縦方向、内面は横方向のハケ調整。
第80図2	34住	1	4次	深鉢				4.0	破片	10YR5/4	石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	縄文時代早期の押型文土器破片。
第80図4	40住	1	4次	鉢	17.7			428.0	完形	10YR5/6	白色と黒色鉱物粒子、雲母粒子が少量混じる。白色の微小な岩片が混じる。	外面は口縁部直下が横方向のナデ調整。それより下位は指頭痕が残る粗雑な整形。内面は横方向のハケ調整。底部はミガキ調整。
第81図1	2次HO-1	1	2次	高坏脚				28.0	破片	2.5YR6/8	石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	1号掘立柱建物柱穴(87号ピット)出土。高坏の脚部破片。
第81図2	2次HO-2	1	2次	S字甕				3.0	破片	7.5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	2号掘立柱建物柱穴(188号ピット)出土。S字口縁台付甕の胴部破片。
第87図1	HB-1	4	4次	小型壷	9.0	12.7	3.1	341.0	完形	10YR6/6	石英、黒色・赤色鉱物粒子がわずかに混じる	西辺溝内の382号土坑上方で出土。外面はミガキ調整。内面はナデ調整。
第87図2	HB-1	8	4次	壷	17.6	26.3	8.0	2210.0	ほぼ完形	5YR4/8	黒色鉱物粒子がわずかに混じる	南辺溝内に一括遺棄された土器破片のまとまりから出土。口唇部と口縁部隆帯に刻み。外面はハケ調整。赤彩されていないが、赤く焼成されている。
第87図3・4	HB-1	5	4次	壷	12.0	18.0	6.5	1381.0	ほぼ完形	10YR5/4	石英、赤色鉱物粒子がわずかに混じる。黒色鉱物粒子は多量に混じる。	南辺溝内に一括遺棄された土器破片のまとまりから出土。内外面ともナデ調整。胴部に加撃痕があり、これにより破砕したと思われ
第87図5	HB-1	1	4次	甑			(5.4)	25.0	破片	10YR6/6	黒色鉱物、乳白色の微小な岩片、黒曜石と思われる黒色の微小な岩片が少量混じる	方形周溝墓の東辺溝内から出土した甑底部破片。
第87図6	HB-1	3	4次	S字甕				6.0	破片	7.5YR4/1	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	方形周溝墓の西辺溝内で出土したS字口縁台付甕の口縁部破片。
第87図7	HB-1	2	4次	S字甕				9.0	破片	7.5YR3/1	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が混じる	方形周溝墓の西辺溝内で出土したS字口縁台付甕の口縁部破片。S字の屈曲が非常にはっきりしている。
第87図8	HB-1	7	4次	深鉢				6.0	破片	10YR2/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が多量に混じる	爪形文が施文された縄文時代前期前葉頃と思われる土器破片。中越Ⅱ式か
第87図9	HB-1	6	4次	土偶				5.0	破片	10YR7/4	長石、石英、黒色と赤色の鉱物粒子、灰色の微小な岩片が混じる	縄文時代中期の土偶左腕破片。
第88図1	28住	1		坏	(12.2)			13.0	破片	7.5YR6/8	雲母粒子が多く混じる	坏口縁部破片。底部破片と同一個体と思われる。
第88図2	28住	2		坏			5.6	66.0	破片	5YR4/6	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる。雲母粒子が多量に混じる。	坏底部破片。口縁部破片と同一個体と思われる。
第90図1	29住	3	4次	坏	13.8	5.5	7.0	161.0	2/3	2.5RY4/6	白色と黒色鉱物、雲母の微小な粒子が混じる	カマド手前の床面出土。甲斐型坏。胴下半と底部はヘラケズリ。内面は放射状暗文。
第90図2	29住	1	4次	甕	(25.0)			62.0	破片	5YR4/4	長石、石英、黒色鉱物、雲母粒子が多く混じる	カマド出土。内外面ともカキメ調整。
第90図3	29住	2	4次	甕	(11.4)			27.0	破片	5YR5/6	赤色と黒色鉱物粒子、乳白色の岩片が混じる	ロクロ整形の小型甕。外面は縦方向のケズリ調整。
第93図1	31住	1	4次	羽釜	31.0	30.0	24.0	1960.0	1/4	10YR3/4	大粒の長石、石英、花崗微小な岩片、乳白色の微小な岩片が多量に混じる。	住居全体から破片が出土して接合した個体。破片の一部は柱穴からも出土している。鍔は全周しておらず、耳状の鍔が4ヶ所？貼り付けられている。内外面とも雑なミガキ調整。内面は風化が進んでいる。
第93図2	31住	3	4次	深鉢				20.0	破片	5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる。雲母粒子が多く混じる	縄文時代早期の押型文土器破片。
第93図3	31住	4	4次	深鉢				17.0	破片	5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる。雲母粒子が多く混じる	縄文時代早期の押型文土器破片。

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第93図4	31住	2	4次	深鉢				7.0	破片	5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる。雲母粒子が多く混じる	縄文時代早期の押型文土器破片。
第96図1	35住	4	4次	羽釜	28.0	20.0	19.0	3020.0	2/3	10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物、大粒の花崗微小な岩片、緑色の微小な岩片が多量に混じる。	カマド内と周辺で出土。鍔は全周しておらず、突起状の小さな鍔が3ヶ所に貼り付けられている。内外面は雑なミガキ調整で、内面下半は風化が進んでいる。
第96図2	35住	3	4次	灰釉碗			6.8	76.0	底部	5Y7/1	雲母と黒色鉱物粒子がごくわずかに混じる緻密な胎土	カマド横の埋土下層で出土した灰釉碗の底部破片。底部を残し、胴部を打ち欠いてあり、見込み部は非常に平滑に摩滅している。墨痕は認められない。
第96図3	35住	1	4次	坏	8.9	2.2	4.4	78.0	完形	7.5YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる	住居東壁沿い、424号土坑傍の埋土下層で出土。ロクロ成形で、底部は回転糸切り。
第96図4	35住	2	4次	坏	(8.8)	2.4	4.4	31.0	破片	7.5YR5/6	長石、石英、赤色鉱物粒子がわずかに混じる	埋土出土。ロクロ成形で、底部は回転糸切
第96図5	35住	5	4次	高台付坏			4.2	67.0	破片	2.5YR4/3	石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母が目立つ	カマド脇の貯蔵穴と思われる419号ピット出土。
第97図1	37住	1	4次	坏	7.7	1.9	4.2	59.0	完形	10YR5/4	石英、黒色･赤色鉱物粒子がわずかに混じる	北壁沿いの埋土下層で出土。ロクロ整形で底部は回転糸切り。
第97図2	37住	2	4次	坏	7.4	2.0	4.2	61.0	完形	7.5YR7/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	北壁沿いの埋土下層で出土。ロクロ整形で底部は回転糸切り。
第97図3	37住	3	4次	坏	7.8	2.1	2.0	65.0	完形	7.5YR8/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	東壁沿いの埋土下層で出土。ロクロ整形で底部は回転糸切り。
第97図4	37住	4	4次	坏	(11.6)			55.0	破片	10YR6/6	石英と赤色鉱物粒子がごくわずかに混じる	住居中央付近の埋土下層で出土。内外面ともロクロ整形。
第97図5	37住	5	4次	甕				113.0	破片	5YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	カマド横の埋土下層で出土。刃釜か甕の口縁部破片。内外面ともナデ調整。
第105図1	DK-009	1	1次	深鉢	(24.0)			107.0	破片	10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母粒子が目立つ	縄文時代中期中葉、藤内式の深鉢口縁部破片。口縁部には、粘土紐貼付による円形突起と重三角区画文、爪形の押引文、竹管による半円刺突文が施文される。
第105図5	DK-079	1	1次	土製円盤	5.3	1.0		31.0		10YR3/2	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片、雲母粒子が混じる	縄文時代中期の五領ヶ台式か狢沢式土器の破片を加工した土製円盤。沈線と浅い縄文が施文されている。
第105図6	DK-079	2	1次	深鉢				16.0	破片	10YR3/3	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	縄文時代中期前葉の新道式と思われる深鉢の頸部から胴部にかけての破片。竹管のナデによる隆帯で文様を描出。
第105図8	DK-082	1	1次	深鉢				32.0	破片	10YR5/8	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる	土器胴部に貼り付けた幅広の粘土紐を指先でつまみ出したような波状突起。縄文時代中期中葉か。
第105図10	DK-162	1	1次	深鉢				23.0	破片	10YR3/1	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる	縄文時代中期中葉、藤内式土器破片。隆帯とキャタピラ文、波状沈線。
第105図11	DK-166	1	1次	深鉢				21.0	破片	10YR4/3	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式と思われる土器破片。縄文と集合沈線。
第105図13	DK-178	1	1次	深鉢				20.0	破片	10YR2/3	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が混じる	縄文時代中期末葉、曽利Ⅳ式かⅤ式と思われる土器の口縁部破片。沈線による楕円文内に縄文充填。
第106図1	DK-204	1	1次	深鉢				167.0	破片	10YR2/2	長石、石英、黒色･赤色の鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が混じる	縄文時代中期中葉、藤内式の土器破片。爪形押引文、斜行沈線、幅広沈線と隆帯。
第106図2	DK-217	1	1次	深鉢				25.0	破片	10YR2/1	長石、石英粒子がわずかに混じる。繊維が多く混じる。	8号住居と重複する217号土坑出土。粗雑な格子目文の中越式土器。
第106図3	DK-230	1	2次	土偶				101.0		10YR3/3	黒色鉱物粒子と乳白色の微小な岩片がわずかに混じる	土偶の右肩部と思われる破片。230号土坑は、13号住居の貯蔵穴か。
第106図4	DK-233	1	2次	深鉢				35.0	破片	10YR4/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母粒子が目立つ	縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器の口縁部破片。口唇部に刻み、口縁直下はRL単節縄文。

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重さ(g)	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第106図6	DK-246	1	2次	深鉢				70.0	破片	10YR1.7/1	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が多量に混じる	内外面とも指頭圧痕と擦痕。外面には大粒の縄文地文。中越式の尖底土器の口縁部破
第106図8	DK-258	1	2次	深鉢				39.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母粒子が目立つ	縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器と思われる破片。U字状の隆帯に爪形押引。頸部は沈線。
第106図9	DK-264	1	2次	土製円盤	3.0	1.2		14.0		10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が混じる	縄文時代中期の土器破片を用いた土製円盤
第106図10	DK-273	1	2次	深鉢				169.0	破片	7.5YR5/8	長石、石英、黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片が少量混じる	縄文時代中期中葉、藤内式と思われる土器破片
第106図11	DK-273	2	2次	深鉢				32.0	破片	10YR5/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が混じる	縄文時代中期中葉、藤内式と思われる土器破片
第106図13	DK-287	2	2次	深鉢				17.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式と思われる土器破片。
第106図14	DK-287	1	2次	深鉢				41.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母粒子が目立つ	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式と思われる土器破片。口縁部はRL単節縄文、横位沈線、棒状工具による刺突。
第107図1	DK-301	1	2次	深鉢				30.0	破片	10YR1.7/1	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片がわずかに混じる	縄文時代中期中葉と思われる深鉢口縁部破片。無文の口縁部の下に横位沈線。胴部はRL単節縄文地文。
第107図2	DK-309	1	2次	深鉢				12.0	破片	10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母粒子が目立つ	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器破片。頸部に隆帯。胴部は沈線による幾何学文
第107図3	DK-321	1	2次	深鉢				26.0	破片	10YR5/4	長石、石英、黒色・赤色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が多量に混じる	縄文時代中期前葉、狢沢式と思われる深鉢の口縁部破片。口縁部はキャタピラ文と角押
第107図4	DK-336	1	2次	深鉢				29.0	破片	10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる。繊維が混じる	縄文時代前期前葉の深鉢破片。胴部に縦位の波状沈線文。中越式。
第107図5	DK-339	1	2次	深鉢				224.0	破片	10YR3/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	縄文時代中期中葉のメガネ状突起。
第107図6	DK-341	1	2次	深鉢				16.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母粒子が目立つ	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器破片。浅い沈線。
第107図7	DK-342	1	2次	深鉢				43.0	破片	10YR4/3	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器の口縁部破片。
第107図8	DK-349	1	2次	深鉢				16.0	破片	10YR3/3	長石、石英、黒色・赤色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が混じる	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式と思われる土器破片。横位と弧状の沈線。かすかな縄
第107図9	DK-354	1	3次	深鉢				44.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる。雲母粒子が目立つ	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器の口縁部破片。爪形押引文隆帯と沈線地文。
第107図10	DK-356	1	3次	深鉢				38.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片がわずかに混じる	縄文時代中期後葉井戸尻式と思われる土器破片。縦位条線地文に幅広の隆帯、粘土紐を数珠状に貼り付けた懸垂文。
第107図12	DK-357	1	3次	深鉢				133.0	破片	10YR2/1	長石、石英、黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が混じる	縄文時代中期中葉、藤内式と思われる土器破片。太い隆帯を用いたパネル文。
第108図1	DK-359	1	3次	深鉢				40.0	破片	10YR4/4	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	縄文時代中期中葉もしくは後葉の土器破片。渦巻状隆帯に爪形押引文。
第108図4	DK-362	1	3次	深鉢				73.0	破片	10YR5/4	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる	縄文時代中期中葉、藤内式土器口縁部破片。円形の突起、キャタピラー文。
第109図1	DK-389	1	4次	深鉢				32.0	破片	10YR6/8	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる。繊維が多量に混じる	中越式土器破片。接合面が剥がれて、擬口縁状になっている。内外面とも指頭調整痕。
第109図3	DK-404	1	4次	深鉢				21.0	破片	10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる	縄文時代中期末葉、曽利Ⅳ式もしくはⅤ式の土器破片。弧状の沈線文とRL単節縄文地
第109図4	DK-420	1	4次	深鉢				12.0	破片	7.5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物粒子が少量混じる	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器と思われる土器破片。
第109図5	DK-420	3	4次	深鉢				25.0	破片	10YR5/8	長石、石英、黒色鉱物粒子が混じる	縄文時代中期中葉以降と思われる土器破片。RL単節縄文地文。井戸尻式か曽利式と思われる。
第109図6	DK-420	2	4次	深鉢				27.0	破片	5YR5/6	長石、石英、黒色鉱物粒子、雲母が混じる	縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器と思われる土器破片。RL単節縄文地文に沈線。

西ノ原B遺跡　土器観察表

図版番号	遺構名	番号	調査年度	器種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	重さ（g）	残存度	胎土色調	胎土質	出土位置・特徴・時期など
第110図1	PT-219	1	2次	深鉢				41.0	破片	10YR2/1	黒色・赤色の鉱物粒子、乳白色の微小な岩片が少量混じる	縄文時代中期前葉、新道式土器と思われる口縁部破片。キャタピラー文、波状沈線、横位の隆帯。
第110図2	PT-219	2	2次	深鉢				54.0	破片	10YR5/2	石英、乳白色の微小な岩片が混じる	縄文時代中期中葉、藤内式と思われる土器の口縁部破片。刻み隆帯とパネル文。
第110図9	36住	1	4次	土製円盤	3.1	0.8		14.0	完形	10YR6/3	長石、石英、黒色・赤色の鉱物粒子が混じる。透明感のある緑色の鉱物粒子がわずかに混じ	中世の内耳鍋の胴部破片を加工した土製円盤。
第110図10	38住	1	4次	深鉢				60.0	破片	7.5YR5/6	黒色鉱物粒子、乳白色の微小な岩片がわずかに混じる	縄文時代中期末葉、曽利Ｖ式の深鉢口縁部破片。浅い凹線状の区画文と、櫛歯状工具による綾杉条線文。
第110図11	DK-409（38住）	2	4次	深鉢				64.0	破片	10YR6/6	長石、石英、黒色鉱物粒子がわずかに混じる	縄文時代中期末葉、曽利Ｖ式の深鉢口縁部破片。浅い凹線による口縁部文様と、櫛歯状工具による綾杉条線文。
第110図12	38住	3	4次	深鉢				61.0	破片	10YR4/2	長石、石英、黒色鉱物粒子、灰色の微小な岩片が少量混じる	縄文時代中期末葉、曽利Ｖ式の深鉢胴部破片。棒状工具による浅い垂下文とハの字文。
	05住	9	1次	深鉢				16.0	破片	10YR3/2		埋土出土。管状工具による円形刺突文。口唇部に絡条体と思われる原体による浅い刻
	05住	10	1次	深鉢				20.0	破片	10YR3/2		埋土出土。粗雑な格子目状の文様
	10住	4	1次	深鉢				27.0	破片	10YR4/6		埋土出土。棒状工具による横、斜め、円の幾何学文様。組紐と思われる地文。口唇部にも地文施文が及ぶ。内面は平滑なミガキ調整。関山式か。12号住居出土破片と同一個体と
	12住	8	2	深鉢				31.0	破片	10YR4/6		棒状工具による横、円形の幾何学文。組紐と思われる地文。内面は平滑なミガキ調整。関山式か。5号住居、12号住居に同一個体と思われる破片あり。
	23住	1	2次	深鉢				30.0	破片	10YR5/1		
	23住	2	2次	焼成粘土塊				24.0		10YR1.7/1		
	23住	3	2次	深鉢				11.0	破片	10YR6/4		棒状工具による横、斜め、円形の幾何学文。組紐と思われる地文。内面は平滑なミガキ調整。関山式か。5号住居、12号住居に同一個体と思われる破片あり。
	24住	11	3次	土鈴	(4.6)	2.5	(1.0)			10YR4/4		埋土出土。胎土質から縄文時代の土鈴破片と思われる。
	2次HO-1	2	2次	S字甕				8.0	破片	7.5YR6/6		1号掘立柱建物柱穴（89号ピット）出土。S字口縁台付甕の破片。

西ノ原B遺跡　石器観察表

図版番号	調査次	遺構	文化層	器種記号	器　種	石材	形態加工	刃部属性	所見	長さ（mm）	幅（mm）	厚み（mm）	重量（g）
第9図1	1･2次	01住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	住居埋土出土。黒曜石の矩形剥片を用いて、押圧剥離で整形加工をしている石鏃。短い脚は折れている。	14.9	10.2	4.5	0.6
第9図2	1･2次	01住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	住居埋土出土。黒曜石の短い脚の石鏃。	17.3	11.2	3.6	0.5
第9図3	1･2次	01住	1	A2	石鏃未製品	珪質頁岩	HP	HP	住居埋土中より出土。素材は調整打面の縦長剥片。コーン径は4.4ミリ。押圧剥離は、不規則で貝殻状、急角度でなされる。押圧剥離コーン径は1ミリ。	27.9	18.5	6.1	2.5
第9図4	1･2次	01住	1	C2	鋸歯縁削器	珪質頁岩	HD/平坦	NHD/鋸歯	地床炉上の埋土下層出土。大形の縦長剥片素材。成形加工は裏面になされ、平坦加工で側辺を形成。刃部は小さなハードハンマーで連続的に鋸歯縁を形成している。鋸歯縁のハンマー径2ミリ、素材のコーン径6.9ミリで、ハンマーが2種類ある。	116.8	62.1	27.8	179.0
第9図5	1･2次	01住	1	C1	削器	緑灰色チャート	HD/平坦	S'P	住居東壁沿いの埋土上層出土。縦長剥片素材の裏面側辺にハードハンマーで連続的に形態形成加工し、反対側辺の裏面に細かい押圧剥離の刃部を形成している。	49.9	30.1	16.1	19.7
第9図6	1･2次	01住	1	G	楔形石器	頁岩	HVD	なし	住居埋土出土。頁岩の剥片を用いた楔形石器。上面は折れている。	52.4	65.7	11.6	43.1
第9図7	1･2次	01住	1	D1	縦形石匙	ホルンフェルス	S'P/急角度	反S'P	試掘トレンチの1号住居範囲で出土。縦長剥片の側辺を急角度の押圧剥離で成形加工して背をつくり、反対側辺の裏面に細かい押圧剥離で刃部を形勢している石匙。	59.5	24.6	6.7	8.2
第9図8	1･2次	01住	1	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	欠損	住居埋土出土。横長剥片を素材にして、側辺を通常の剥離で加工している。基部は縦方向から剥離して成形している。 坂平遺跡でも同種の打製石斧が出土しているが、中期石器の混入	68.8	54.1	15.5	71.8
第9図9	1･2次	01住	1	H3	石核ブランク	珪質頁岩	HD	なし	地床炉から南へ10cm、床面上で出土。頁岩の亜角礫をハードハンマーで分割した石核ブランク。	64.0	54.7	38.0	139.1
第9図10	1次	01住	1		磨石類	砂岩			14号ピット東側の住居壁際、埋土下層で出土。顕著な摩滅痕、敲打痕はみられない。	92.0	70.0	39.0	308.0
第9図11	1次	01住	1		磨石類	安山岩			住居埋土出土。表裏面、側面に深い凹みあり。図右面は研磨によりきれいな凸面が形成されている。	106.0	80.0	41.0	476.0
第11図6	1･2次	03住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	横長剥片を素材にして、周縁から押圧剥離で整形加工をした石鏃。脚部は短い。	15.2	11.0	3.8	0.5
第11図7	1･2次	03住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	埋土上層出土。細長い形状の端正な押圧剥離で形成される石鏃	20.2	13.6	3.0	0.5
第11図8	1･2次	03住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	埋土下層出土。比較的大きな貝殻状の押圧剥離で形成されている	22.1	16.8	6.5	1.5
第11図9	1･2次	03住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	住居中央付近の床面出土。やや端正な貝殻状の押圧剥離で形成される石鏃。	22.1	14.1	3.8	0.7
第11図10	1･2次	03住	1	C1	削器	黒曜石	S'P	S'P/鋸歯	垂直打撃の縦長剥片の側辺に、小さな径のハンマーで鋸歯縁の刃部を形成している削器。	29.8	11.8	4.5	1.3
第11図11	1･2次	03住	1	A2	石鏃未製品	黒曜石	、反HI/急角	なし	住居埋土出土。やや厚い剥片を素材にして、間接打撃と押圧剥離で形態を形成した石鏃の未製品。三角形になるように石鏃ブランクを製作している。	22.5	28.7	8.3	4.6
第11図12	1･2次	03住	1	C3	素刃削器	黒曜石	潰し、反NH	素刃	住居埋土出土。黒曜石の横長剥片素材。打面部から平坦な剥離で成形加工を施し、基部（左側辺）は刃潰し加工を施す。刃部は素刃で、折れている。	21.0	32.6	11.6	6.8
第11図13	1･2次	03住	1	D2	横形石匙	珪質頁岩	S'P	S'P/急角度	北壁、外側の周溝上の埋土中層出土。切子打面の横長剥片を素材にして、押圧剥離で抉りの加工と刃部加工がなされている、刃部は急角度で掻器状である。	38.1	55.7	9.2	19.5
第11図14	1･2次	03住	1	D1	縦形石匙	黒曜石	S'P	S'P	小型の石匙。縦長剥片を素材にして、裏面に押圧剥離で整形加工、反対側辺の背面に押圧剥離で刃部を形成している。	32.9	12.1	5.7	1.8
第11図15	1次	03住	1		磨石類	安山岩			43号ピット北東の周溝沿い、床面よりわずかに浮いて出土。一面に顕著な凹み。裏面にも2ヵ所に弱い敲打痕あり。	98.0	76.0	46.0	476.0
第11図16	1次	03住	1		磨石類	砂岩			43号ピット南の周溝沿い、埋土下層出土。一面中央に小さな敲打痕。上縁辺に敲打痕と敲打に伴う剥離あり。	101.0	88.0	51.0	585.0
第11図17	1次	03住	1		礫	砂岩			埋土出土。細長い小礫4点（第11図17～20）が出土している。中央付近に摩滅による光沢あり。	67.0	23.0	20.0	58.0
第11図18	1次	03住	1		礫	砂岩			埋土出土。中央付近に摩滅による光沢あり。	64.0	28.0	18.0	59.0
第11図19	1次	03住	1		礫	砂岩			埋土出土。中央付近に摩滅による光沢あり。	64.0	27.0	20.0	58.0
第11図20	1次	03住	1		礫	砂岩			埋土出土。表面が風化して摩滅痕は観察できない。	71.0	28.0	24.0	65.0
第14図9	1･2次	05住	1	A1	石鏃	珪質頁岩	S'P	S'P	住居中央付近の埋土中層出土。細身の珪質頁岩製の石鏃。押圧剥離の巾は3mmが最大。黒曜石の石鏃とは形態が異なる。	22.6	12.3	3.8	0.7
第14図10	1･2次	05住	1	A1	石鏃	珪質頁岩	S'P	S'P	22号ピット東側の壁際、床面出土。珪質頁岩製の石鏃。押圧剥離はやや不整。	21.8	13.9	2.9	0.7
第14図11	1･2次	05住	1	A1	石鏃	珪質頁岩	S'P	S'P	191号ピット東1m、周溝上の埋土上層出土。鋸歯縁の石鏃。脚部がないので、未製品の可能性もある。	22.4	12.4	3.5	0.8
第14図12	1･2次	05住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	黒曜石の石鏃。脚部の外側の輪郭に抉りがはいる。特徴的な形態。住居埋土出土。	23.3	19.7	5.2	1.6

西ノ原B遺跡　石器観察表

図版番号	調査次	遺構	文化層	器種記号	器　種	石材	形態加工	刃部属性	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	重量 (g)
第14図13	1・2次	05住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	胴部の加工が脚部を巻き込んで、脚部が欠損した石鏃。未製品の可能性もある。住居埋土出土。	21.1	14.9	4.1	1.0
第14図14	1・2次	05住	1	A2	石鏃未製品	黒曜石	S'P	なし	縁辺から押圧剥離で加工が施された石器。おそらく石鏃の未製品であろう。住居埋土出土。	17.9	17.6	6.8	2.1
第15図1	1・2次	05住	1	A2	石鏃未製品	黒曜石	S'P	S'P	折れた剥片を素材にして、押圧剥離で尖頭部を形成した石器。石鏃未製品であろう。住居埋土出土。	21.6	16.6	6.5	1.8
第15図2	1・2次	05住	1	A2	石鏃未製品	黒曜石	S'P	S'P	剥片の両側辺に押圧剥離で加工を施した石器。石鏃の未製品であろう。風化した角礫状の礫面が残る。住居埋土出土。	22.7	22.4	8.1	3.7
第15図3	1・2次	05住	1	C1	削器	珪質頁岩	叩折	HD	横長剥片素材で裏面に鋸歯状の刃部が形成されている。	27.8	38.8	10.5	8.1
第15図4	1・2次	05住	1	C1	削器	黒曜石	なし	S'P	縦長剥片の裏面左側辺から成形加工。素材背面の右側辺には押圧剥離で刃部を形成している。風化した角礫状の礫面。住居	52.6	36.4	15.5	20.1
第15図5	1・2次	05住	1	C1	削器	チャート	HVD	S'P	矩形剥片素材で、右側辺はHVDで加工。刃部は左側辺手前の押圧剥離の辺。	33.2	31.9	9.4	9.3
第15図6	1・2次	05住	1	G	楔形石器	珪質頁岩	HVD	なし	小形の剥片の楔形石器。	19.3	33.7	8.1	4.8
第15図7	1・2次	05住	1	G	楔形石器	黒曜石	HVD	なし	小形の剥片の楔形石器。ややくもった礫面が残る。住居埋土出土。	21.6	21.0	8.1	3.6
第15図8	1・2次	05住	1	G	楔形石器	黒曜石	HVD	なし	黒曜石の楔形石器。残核の可能性もある。風化した角礫状の礫面。	43.1	35.1	14.5	14.0
第15図9	1・2次	05住	1	G	楔形石器	赤チャート	HVD	なし	小形の剥片の楔形石器。	28.5	25.4	7.3	5.4
第15図10	1・2次	05住	1	B	石錐	黒曜石	S'P	S'P	押圧剥離で成形された石錐。摘みの部分には古い剥離面が残されている。住居埋土出土。	17.3	13.9	4.8	0.7
第15図11	1・2次	05住	1	D1	縦形石匙	黒曜石	I/急角度、S	S'P	直接打撃の素材剥離で縦長剥片を形成。左側辺は不整な間接打撃。右側辺は押圧剥離による刃部。一部にやや光沢のある角礫状の礫面が残る。埋土上層出土。石匙としたが、つまみ部	70.3	23.7	12.6	16.0
第16図1	1・2次	05住	1	D1	縦形石匙	珪質頁岩	HI/平坦、反	S'P	縦長剥片の末端辺を基部にして、反方向の間接打撃でわずかな摘みをつくる石匙。背部は裏面左側辺で押圧剥離で整形される。刃部は右側辺。	54.6	31.4	12.0	17.0
第16図2	1・2次	05住	1	D1	縦形石匙	珪質頁岩	反HI/平坦	S'P	19号ピット東20cmの床面出土。縦長剥片の基辺両脇に間接打撃でわずかに抉りをいれて、目立たない摘みをつくる石匙。刃部は右側辺の直線状の辺。左側辺は湾曲した背部。	72.7	45.2	14.5	40.1
第16図3	1・2次	05住	1	D2	横形石匙	珪質頁岩	HD	S'P	192号ピット北側、291号土坑上の埋土上層出土。矩形剥片を90度回転させて、右側辺は鋭い辺に細かい押圧剥離で形成している。摘みの形態形成加工はハードハンマーの直接打撃。	54.6	44.6	12.2	23.9
第16図4	1・2次	05住	1		磨石類	安山岩			一部を欠損した磨石類。四面に敲打痕と、平坦面端に平滑な摩滅あり。埋土上層出土。	112.0	59.0	45.0	510.0
第16図5	1・2次	05住	1	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	HD	18号ピット南の壁際、埋土上層出土。横長剥片素材で、伸びのない平坦剥離を直接打撃で施している。側辺の形態形成加工と刃部加工は同じ剥離である。刃部は薄く、刃こぼれ痕はない。	134.7	50.7	18.9	137.2
第16図6	1・2次	05住	1		磨石類	安山岩			円筒状の磨石類。全体を敲打整形。使用に伴うと思われる敲打痕がわずかにあり。平滑な摩滅はみられない。埋土上層出土。	139.0	58.0	55.0	640.0
第16図7	1次	05住	1		磨石類	安山岩			敲打痕あり。平滑な摩滅はみられない。埋土上層出土。	55.0	58.0	41.0	100.0
第16図8	1次	05住	1		磨製石斧	蛇紋岩類			刃部、基部を折損した定角式の磨製石斧。研磨整形痕が全体に見られる。18号ピット南東の壁沿いの埋土下層出土。	87.0	66.0	28.0	266.0
第16図9	1次	05住	1		磨製石斧	蛇紋岩類			基部を折損、再生した小型の定角式磨製石斧。埋土中層出土。	47.0	40.0	10.0	34.0
第16図10	1次	05住	1		磨石類	安山岩			拳よりもやや大きな不定形の礫に敲打痕が認められる。埋土中層出土。	108.0	104.0	93.0	940.0
第17図1	1・2次	05住	1	D3	異形石器	黒曜石	HD、S'P	S'P	摘みの付いた両面加工の異形石器。石匙の可能性もあるが、刃部調整が不明瞭であるため、器種は異形石器とした。住居地床炉と東壁の間の床面出土。	41.3	32.7	11.4	10.0
第17図2	1・2次	05住	1	H1	石核	黒曜石	HD	HI	削器転用の石核。下辺に刃部形成の押圧剥離がみえる。その押圧剥離を切って裏面に剥離面が残されている。住居埋土出	36.1	25.0	8.6	7.1
第17図3	1・2次	05住	1	H3	石核ブランク	黒曜石	HD	なし	試し打ちの残る石核ブランク。風化した角礫状の礫面。住居埋土上層出土。	47.4	59.4	28.2	64.6
第17図4	1・2次	05住	1	H1	石核	黒曜石	なし	NHD	小形剥片を剥離した石核。径の細いハンマーの直接打撃。光沢がなく微細な気泡が混じるような黒曜石。礫面は風化した角礫状。住居埋土出土。	22.9	38.1	17.7	12.8
第17図5	1・2次	05住	1	H1	石核	黒曜石	HD	HII	表裏に垂直打撃の痕跡が残る石核。やや風化した礫面が残る。住居埋土出土。	32.1	37.2	15.5	16.1
第17図6	1・2次	05住	1	C4	使用痕剥片	黒曜石	なし	MF	刃部は左側辺。平坦打面のHDが素材。風化した角礫状の礫面。住居埋土出土。	51.4	37.1	13.7	20.9
第17図7	1・2次	05住	1	F1	剥片	珪質頁岩	なし	なし	主要剥離面は図の正面手前のポジ面。石核の剥片剥離過程で偶発的に剥がされた剥片である。石核は剥片もしくは分割礫素	39.8	62.1	19.7	42.2
第17図8	1・2次	05住	1	F1	剥片	頁岩	なし	なし	自然面打面の剥片。背面構成は多方向からなる。打面転位の石核を想定させる。	45.6	53.5	12.2	14.0

西ノ原B遺跡　石器観察表

図版番号	調査次	遺構	文化層	器種記号	器　種	石材	形態加工	刃部属性	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	重量 (g)
第17図9	1・2次	05住	1	C4	使用痕剥片	黒曜石	なし	MF	刃部は裏面の右側辺。微細剥離がみられる。素材はHD。風化した角礫状の礫面が残る。住居埋土出土。	45.3	28.5	8.7	7.0
第17図10	1・2次	05住	1	H4	原石	水晶	なし	なし	水晶の原石	21.5	11.5	9.7	2.7
第19図4	1・2次	10住	1	A3	有茎鏃	黒曜石	S'P	S'P	透明感の高い黒曜石の有茎鏃。この石鏃は弥生時代の石器と思われる。116号土坑付近の住居床面出土。	24.4	13.4	3.9	0.8
第19図5	1・2次	10住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	凹基鏃。住居中央付近の床面出土。	17.6	13.9	4.2	0.6
第19図6	1次	10住	1		磨石類	砂岩			表裏に敲打痕。116号土坑出土。	93.0	87.0	47.0	458.0
第19図7	1・2次	10住	1	H1	石核	黒曜石	HVD	なし	多方向から小形の剥片を剥がしている石核。風化した角礫状の礫面が残る。198号土坑傍の住居床面出土。	46.3	36.9	17.7	27.0
第21図8	1・2次	12住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	石鏃先端部の断片。住居埋土出土。	10.5	9.1	2.1	0.2
第21図9	1・2次	12住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	凹基鏃。脚の一部が欠損。押圧剥離の巾は2.4mm。埋土下層出土	17.8	11.1	2.4	0.3
第21図10	1・2次	12住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	主要剥離面を残す半両面加工の石鏃。押圧剥離はやや不整。住居中央の床面出土。	21.5	13.6	3.6	0.7
第21図11	1・2次	12住	1	C1	削器	チャート	叩折・S'P	S'P	尖頭状の削器。刃部先端は摩滅しており、錐に使用された可能性がある。刃部は右側辺。左側辺は形態加工。	53.0	40.3	10.6	19.2
第21図12	1・2次	12住	1	C1	削器	チャート	HI	S'P	正面右側辺が間接打撃の加工。刃部は押圧剥離。	27.2	32.4	8.1	7.9
第21図13	1・2次	12住	1	C1	削器	硬砂岩	HVD	HP	刃部は正面右側辺手前で、細かいHP/鋸歯の加工がみられる。形態形成はHVD.	87.6	56.2	13.6	69.5
第22図1	1・2次	12住	1	G	楔形石器	黒曜石	HVD	なし	楔形石器であるが、垂直打撃の石核の可能性もある。風化した角礫状の転石のような礫面。	31.6	22.8	9.3	6.6
第22図2	1・2次	12住	1	G	楔形石器	黒曜石	HVD	なし	黒曜石の楔形石器。住居埋土出土。	30.0	29.2	12.4	7.4
第22図3	1・2次	12住	1	B	石錐	黒曜石	S'P	S'P	摘みの付いた石錐。刃部は両面加工。素材は横長剥片で、素材側辺部を刃部に加工している。住居埋土出土。	26.6	11.7	5.5	0.9
第22図4	1・2次	12住	1	D2	横形石匙	黒曜石	S'I/急角度	S'D	素材はHD。摘みはおそらくソフトハンマーの間接打撃。刃部はハンマーをこするようにした直接打撃の可能性がある。埋土上層出土。風化した角礫状の礫面。	40.5	57.9	10.7	15.7
第22図5	1・2次	12住	1	D1	縦形石匙	黒曜石	S'P	S'P	両面加工。素材が厚く素材面を中央に残している。押圧剥離巾は4.4mm。風化した角礫状の礫面。埋土上層出土。	34.6	18.1	7.3	3.7
第22図6	1・2次	12住	1	I1	打製石斧	細粒砂岩	HVD	欠損	打製石斧の基部。周縁に垂直打撃の加工がみられる。	77.1	46.8	17.1	55.4
第22図7	2次	12住	1		磨石類	安山岩			表裏面と側面に敲打痕。図右面の一部には摩滅痕が残る。	100.0	67.0	46.0	494.0
第22図8	2次	12住	3		石皿	安山岩			石皿破片。埋土中層出土。	142.0	140.0	64.0	1430.0
第22図9	1・2次	12住	1	H2	残核	黒曜石	なし	S'D	正面の剥離面はネガ面。一枚剥離の残核である。風化した角礫状の礫面。	46.2	23.2	11.6	8.0
第22図10	1・2次	12住	1	H2	残核	珪質頁岩	S'D	S'D	172号ピットの南、住居壁際の埋土上層出土。珪質頁岩の中形残核。周縁からソフトハンマーで薄い剥片を剥離している。素材	68.3	55.9	36.3	143.4
第22図11	1・2次	12住	1	F1	剥片	赤チャート	なし	なし	横長剥片。打面は図の側面で切子打面。	30.3	20.0	7.3	3.2
第22図12	1・2次	12住	1	H4	原石	水晶	なし	なし	水晶の原石	23.9	7.3	4.9	1.0
第23図1	1・2次	16住	1	A2	石鏃未製品	黒曜石	S'P	なし	垂直打撃の剥片に、部分的に押圧剥離が付く。床面出土。	19.6	13.4	5.1	1.1
第24図4	1・2次	23住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	五角形鏃に近い形態の石鏃。押圧剥離はやや不整。埋土下層出土	27.2	16.5	3.1	0.8
第24図5	1・2次	23住	1	I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	HD	背面に自然面の残る打製石斧。刃部はやや摩耗がある。	111.2	53.2	23.4	143.3
第26図2	1・2次	17住	4	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	貝殻状の押圧剥離で加工された石鏃。住居中央北西寄りの床面出土。	17.9	13.9	4.5	0.8
第26図3	1・2次	17住	4	H4	原石	水晶	なし	なし	水晶の原石。埋土出土。出土位置不明。	23.8	7.7	5.4	1.2
第26図4	1・2次	17住	4	I1	打製石斧	砂岩	HVD	HD	刃部が大きく欠損している打製石斧。137号ピット南の埋土下層出土	97.3	45.2	23.9	106.9
第29図2	1・2次	07住	4	C3	素刃削器	黒曜石	HP	MF	黒曜石の剥片素材。左側辺の一部にHPで整形加工がなされる。右側辺には潰れた刃こぼれ痕(MF)が連続している。	32.7	20.2	9.7	4.9
第29図3	1・2次	07住	4	H4	原石	黒曜石	なし	なし	試し打ちのような剥離がみられる原石である。風化した角礫状の礫面	54.4	31.3	15.3	26.6
第29図4	1・2次	08住	4	F1	剥片	赤チャート	なし	なし	小打面をもつ剥片。稀少石材。	26.1	17.5	6.2	2.1
第30図3	1次	09住	4		磨石類	安山岩			住居中央付近の床面出土。両面に深い凹み。	71.0	90.0	46.0	322.0
第35図15	1・2次	14住	3	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	幅広の押圧剥離(4.3mm)で加工された石鏃。完形品。住居中央の床面出土。	22.4	15.4	5.5	0.8
第35図16	1・2次	14住	3	A1	石鏃	黒曜石	S'P/鋸歯	S'P/鋸歯	性の小さい押圧剥離具で加工された鋸歯縁の石鏃。埋土出土	18.8	9.3	3.0	0.3
第35図17	1・2次	14住	3	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	幅広の押圧剥離(3.8mm)で加工された石鏃。142号ピット南の床面出土。	25.3	17.2	3.3	0.9
第35図18	1・2次	14住	3	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	貝殻状の押圧剥離で加工された石鏃。埋土下層出土。	19.7	15.3	2.8	0.6
第35図19	1・2次	14住	3	A1	石鏃	黒曜石	S'P/急角度	S'P/急角度	幅広の押圧剥離(3.8mm)で加工された石鏃。埋土上層出土。	28.5	13.6	5.0	1.2
第36図1	1・2次	14住	3	A2	石鏃未製品	黒曜石	S'P	S'P	周縁加工と脚部の抉りをいれた石鏃未製品。風化した角礫状の礫面。埋土出土。	18.7	14.9	5.3	1.4
第36図2	1・2次	14住	3	C3	素刃削器	砂岩	HVD	素刃・MF	住居中央やや南寄りの床面出土。打面を垂直打撃で除去し、側辺の鋭い辺を刃部にした削器。	78.8	57.5	16.4	85.2

西ノ原B遺跡　石器観察表

図版番号	調査次	遺構	文化層	器種記号	器　種	石材	形態加工	刃部属性	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	重量 (g)
第36図3	1・2次	14住	3	C1	削器	ホルンフェルス	HD	HD/鋸歯	160号ピット上の埋土中層出土。横長剥片を素材に、素材末端辺にHDで刃部を形成している削器。器面はやや風化している。	112.2	70.5	20.0	146.7
第36図4	1・2次	14住	3	B	石錐	チャート	S'P	S'P	出土位置不明。小形の横長剥片を素材にした石錐。素材は折れており、折れ面を加工が切る。	20.0	10.9	6.2	1.3
第36図5	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	素刃・MF	住居中央東寄りの埋土下層出土。器面は風化している。	111.0	59.1	18.8	125.4
第36図6	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	細粒砂岩	HVD	欠損	住居中央の埋土下層出土。刃部折損。	99.1	48.3	29.2	138.2
第36図7	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	片岩	HVD	土づれ痕	住居中央の埋土下層出土。石器は風化して剥落が激しい。	105.4	49.5	16.8	84.1
第36図8	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	片岩	HVD	MF	住居中央の埋土下層出土。	99.4	52.4	13.0	76.4
第36図9	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	欠損	住居中央南東寄りの埋土下層出土。刃部折損。	75.4	55.4	15.2	72.4
第36図10	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	不明	142号ピットと141号ピットの間の床面で出土。器面は風化が著	114.2	45.0	16.0	89.3
第37図1	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	欠損	150号ピット南50cmの埋土下層出土。器面はやや風化している	89.6	45.6	25.5	112.9
第37図2	1・2次	14住	3	D2	横形石匙	頁岩	HD	欠損	150号ピット南1mの床面で出土。成形加工も刃部加工もHD加工された石匙。刃部は部分的に残るがほぼ欠損。	54.7	74.5	16.3	61.0
第37図3	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	素刃	住居中央南東寄りの埋土下層出土。器面は風化している。	106.0	39.8	16.4	79.7
第37図4	1・2次	14住	3	D1	縦形石匙	黒曜石	S'P	MF	裏面の基辺左に押圧剥離で抉りをいれただけの削器。刃部は右側辺でMFが付く。風化した角礫状の礫面。埋土出土。	45.5	21.6	7.0	4.6
第37図5	1・2次	14住	3	D1	縦形石匙	砂岩	HVD	HD	139号ピット付近の埋土中層出土。左側辺が刃部で摩耗している。右側辺は垂直打撃の成形加工。わずかな抉りがある。	126.9	45.4	9.7	56.5
第37図6	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	素刃・MF	住居中央の埋土下層出土。器面は風化している。	99.1	46.0	14.8	63.2
第37図7	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	頁岩	HVD	欠損	出土位置不明。基部、刃部は欠損。	70.8	72.6	21.3	128.9
第37図8	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	素刃・MF	住居中央の埋土中層出土。器面は風化している。	83.5	47.2	20.0	91.6
第37図9	1・2次	14住	3	I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	MF	出土位置不明。円礫の礫面を残す。	108.3	56.0	17.2	127.7
第38図1	2次	14住	3		磨石類	安山岩			150号ピット東傍の床面で出土。平坦な一面に2ヵ所の深い凹み状の敲打痕。	85.0	65.0	54.0	396.0
第38図2	2次	14住	3		磨石類	安山岩			160号ピット北傍の床面で出土。平坦な両面と側面が平滑に磨耗し、敲打痕も生じている。石器の周縁部分にも弱い敲打痕が	92.0	65.0	46.0	452.0
第38図3	2次	14住	3		磨石類	安山岩			150号ピット南30cmの床面で出土。2面に凹み状の敲打痕。	84.0	80.0	49.0	376.0
第38図4	2次	14住	3		磨石類	安山岩			住居中央東寄りの埋土中層出土。図表裏面は弱い摩滅痕。左面は深いが小さな凹み状の敲打痕。右面は深く広い凹み状の	93.0	71.0	46.0	434.0
第38図5	2次	14住	3		磨石類	安山岩			140号ピット東70cmの床面出土。表裏面に広く深い凹み状の敲打痕。	106.0	43.0	36.0	440.0
第38図6	2次	14住	3		磨石類	安山岩			152号ピット西傍の床面で出土。図表裏面は弱い摩滅痕と深い凹み状の敲打痕。側縁は成形もしくは使用による敲打痕。	88.0	75.0	47.0	510.0
第38図7	2次	14住	3		磨石類	安山岩			住居中央と161号ピットの中間地点の床面で出土。片面に弱い敲打痕と摩滅痕。裏側にも敲打痕かと思われる浅く小さな凹み	112.0	104.0	63.0	1040.0
第38図8	2次	14住	3		敲き石	安山岩			147号ピットの東傍の床面で出土。実測図上下端に敲打痕。石器製作用のハンマーか。	117.0	50.0	36.0	382.0
第38図9	2次	14住	3		磨製石斧	緑色岩			住居中央と143号ピットの中間の床面で出土。折損した磨製石斧を敲石に転用。石器製作用ハンマーか。	97.0	52.0	33.0	296.0
第38図10	1・2次	14住	3	C4	使用痕剥片	黒曜石	なし	MF	垂直打撃の剥片を素材に、左側辺にMFが付く使用痕剥片。風化した角礫状の礫面。埋土下層出土。	56.6	24.5	10.8	9.5
第38図11	1・2次	14住	3	F1	剥片	黒曜石	なし	なし	垂直打撃のやや大形の黒曜石の剥片。側縁に微細な使用痕。143号ピット南側の床面出土。やや風化した角礫状の礫面。	31.0	58.1	9.1	11.4
第38図12	1・2次	14住	3	F1	剥片	黒曜石	なし	なし	垂直打撃の剥片。裏面左側辺なかほどに微細剥離があるが、使用痕と断定できない。埋土中層出土。	29.3	34.8	7.7	4.2
第41図6	1・2次	20住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	側辺が脚部まで真っ直ぐな輪郭の形態の石鏃。五角形石鏃の形態である。押圧剥離は貝殻状。縄文時代前期初頭の石器と思われる。住居埋土中層出土。	18.5	13.7	3.0	0.5
第41図7	1・2次	20住	1	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	側縁が小さな鋸歯縁になる石鏃。押圧剥離は規則正しい。住居東壁近くの床面出土。縄文時代前期初頭の石器と思われる。	18.9	10.7	3.7	0.5
第41図8	1・2次	20住	1	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	HD	小形の打製石斧。刃部に損傷はみられない。	82.6	42.1	17.7	58.7
第41図9	1・2次	20住	1	I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	HD	刃部はやや摩耗しており、垂直打撃の加工がある。	111.9	52.0	15.8	104.0
第41図10	1・2次	20住	1	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	HD	通常の剥離の形態加工。刃部は損傷を受けている。	120.0	51.4	16.7	112.5
第43図5	1・2次	21住	4	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	貝殻状の押圧剥離で加工された石鏃。埋土上層出土。	18.9	11.7	3.3	0.5
第43図6	1・2次	21住	4	A1	石鏃	珪質頁岩	S'P	S'P	貝殻状の押圧剥離で加工された石鏃。219号ピット北東の埋土中層出土。	16.6	15.8	3.7	0.6
第43図7	1・2次	21住	4	A1	石鏃	凝灰岩	S'P	S'P	長身の素材面を残す石鏃。210号ピットの北側、21B号住居北壁沿いの床面出土。石鏃には珍しい石材を使用している。基部	27.4	15.2	4.9	1.5
第43図8	1・2次	21住	4	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	裏面に素材面を大きく残す石鏃。21B号住居床面出土。	17.9	11.8	2.3	0.3
第43図9	1・2次	21住	4	A1	石鏃	黒曜石	S'P/鋸歯	S'P/鋸歯	縁辺が鋸歯縁になる石鏃。押圧剥離の巾は3.3㎜と広い。21B号住居床面出土。	26.8	14.5	4.9	1.4
第43図10	1・2次	21住	4	I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	欠損	刃部が欠損している打製石斧。335号土坑北東の埋土下層出土	76.1	49.1	23.4	88.0

西ノ原B遺跡　石器観察表

図版番号	調査次	遺構	文化層	器種記号	器　種	石材	形態加工	刃部属性	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	重量 (g)
第43図11	1・2次	21住	4	I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	HD	刃部が潰れた打製石斧。335号土坑北東の埋土下層出土。	128.9	54.4	27.4	225.9
第43図12	1・2次	21住	4	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	素刃・MF	素材面を大きく残している打製石斧。未製品の可能性がある。335号土坑北東の埋土下層出土。	117.1	54.6	30.8	161.0
第43図13	2次	21住	4		磨石類	安山岩			住居北壁沿いの床面出土。片面に敲打痕。	60.0	67.0	28.0	176.0
第47図7	3次	25住	5	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	貝殻状の押圧剥離で加工された石鏃。素材面を残す。住居埋土出土。	14.4	14.4	2.6	0.4
第47図8	3次	25住	5	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	貝殻状の押圧剥離で加工された石鏃。素材面を残す。住居埋土出土。	18.6	14.7	3.1	0.5
第47図9	3次	25住	5	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	貝殻状の押圧剥離で加工された長脚の石鏃。素材面を残す。住居埋土出土。	17.3	16.0	2.5	0.4
第47図10	3次	25住	5	A1	石鏃	黒曜石	S'P/鋸歯	S'P/鋸歯	素材面を残す石鏃。押圧剥離は急角度で、縁辺は鋸歯状をなす。未製品か。住居埋土出土。	23.3	14.4	4.9	1.2
第47図11	3次	25住	5	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	素材面を残す石鏃。押圧剥離は急角度で、縁辺は鋸歯状をなす。素材面を残す。住居埋土出土。	25.0	15.2	4.0	1.0
第47図12	3次	25住	5	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	脚部欠損の石鏃。押圧剥離は細長くのびる形態。住居埋土出土	14.5	15.5	4.1	0.6
第47図13	3次	25住	5	G	楔形石器	黒曜石	HVD	なし	剥片素材の楔形石器。埋土出土。	24.2	23.5	8.4	3.5
第47図14	3次	25住	5	G	楔形石器	緑泥片岩	HVD	なし	磨製石斧を剥離した剥片が素材。埋土出土。	76.1	52.5	13.0	74.5
第47図15	3次	25住	5	D2	横形石匙	珪質頁岩	S'I/急角度	S'P	横長剥片素材。蝶番剥離の裏面部に押圧剥離で刃部を形成している。埋土出土。	34.3	60.9	15.1	26.6
第47図16	3次	25住	5	D2	横形石匙	ホルンフェルス	HD	素刃・MF	風化の強い石材。HDで抉りをつくり、刃部は素刃にMFが付く。埋土出土。	43.5	67.6	9.3	17.5
第48図1	3次	25住	5	D2	横形石匙	チャート	S'I/急角度	S'P/急角度	縦長剥片素材。間接打撃で摘みをつくり、素材側辺に押圧剥離で刃部を形成。埋土出土。	28.4	44.7	10.4	8.9
第48図2	3次	25住	5	D2	横形石匙	砂岩	HD	HD/　平坦	部分加工の大形石匙。刃部は直接打撃で表裏に形成し、鋭い刃縁。住居中央付近の埋土上層出土。	77.7	89.3	11.8	66.4
第48図3	3次	25住	5	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	欠損	小形の打製石斧。完形品。風化の進んだ石材。埋土出土。	84.9	42.7	11.0	45.1
第48図4	3次	25住	5	I1	打製石斧	頁岩	HVD	欠損	大形の打製石斧。埋土出土。	104.6	68.3	30.0	273.0
第48図5	3次	25住	5		磨石類	安山岩			表裏面に敲打痕と平滑な摩滅痕あり。埋土出土。	110.0	81.0	47.0	685.0
第48図6	3次	25住	5		磨石類	安山岩			表裏面と側面に敲打痕。埋土出土。	101.0	65.0	42.0	372.0
第48図7	3次	25住	5		磨石類	安山岩			表裏に敲打痕と平滑な摩滅痕。住居中央付近の埋土上層出土	99.0	74.0	44.0	415.0
第48図8	3次	25住	5		磨石類	安山岩			273号ピットと274号ピットの中間地点の埋土上層出土。片面にはやや平滑な摩滅痕。もう片面は磨り面を敲打して目立てしたように細かく凹凸がある。	102.0	86.0	59.0	725.0
第48図9	3次	25住	5		磨石類	安山岩			住居北西壁沿いの埋土上層出土。片面が平滑に磨耗している	80.0	68.0	32.0	244.0
第48図10	3次	25住	5		ハンマー	安山岩			平坦な面に敲打痕。下端にも敲打痕。石器製作ハンマーか。	96.0	45.0	27.0	188.0
第48図11	3次	25住	5		磨石類	安山岩			表裏面、側面に敲打痕。一部に平滑な摩滅痕あり。埋土出土。	97.0	74.0	45.0	468.0
第51図5	3次	26住	2	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	小形の石鏃。押圧剥離は貝殻状。住居埋土出土。	18.9	10.5	3.4	0.4
第51図6	3次	26住	2	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	完形の石鏃。押圧剥離は貝殻状。住居北壁沿いの埋土下層出土	17.6	13.9	3.3	0.6
第51図7	3次	27住	2	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	26号住居埋土出土。完形の石鏃。押圧剥離は貝殻状。	20.5	16.7	3.4	0.6
第51図8	3次	26住	2	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	完形の石鏃。押圧剥離は貝殻状。住居南壁沿いの埋土下層出土	19.7	15.4	3.5	0.7
第51図9	3次	26住	2	A1	石鏃	チャート	S'P	S'P	完形の石鏃。押圧剥離はやや規則正しい。	18.8	13.5	3.5	0.7
第51図10	3次	26住	2	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	脚部欠損の石鏃。押圧剥離は貝殻状。住居埋土出土。	30.0	16.0	3.6	1.1
第51図11	3次	26住	2	C1	削器	チャート	叩折	S'P	削器。押圧剥離の部分が刃部で使用痕光沢がみえる。素材打面は叩折の加工。	28.8	39.8	11.4	11.2
第51図12	3次	26住	2	C1	削器	チャート	叩折	S'P	左側辺に押圧剥離、右側辺は折取の削器。使用痕光沢がみえる	30.6	27.9	13.1	10.7
第51図13	3次	26住	2	B	石錐	チャート	S'P	S'P/急角度	チャート製の石錐。先端部は折れ面にも加工が入る。	38.2	14.8	9.0	4.6
第51図14	3次	26住	2	D2	横形石匙	頁岩	HI/急角度	S'P	風化の進んだ表面の石匙。摘みは間接打撃で加工。刃部は押圧剥離。	32.1	51.5	8.8	10.5
第52図1	3次	26住	2	I1	打製石斧	砂岩	HVD	欠損	やや大形の打製石斧で、左側辺を欠損している。	119.4	49.3	22.7	118.8
第52図2	3次	26住	2	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	HD	風化の進んだ表面の打製石斧。完形。	130.8	47.9	18.7	112.2
第52図3	3次	26住	2	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	欠損	刃部欠損の打製石斧。	86.4	40.4	20.3	71.3
第52図4	3次	26住	2		磨石類	安山岩			平滑な摩滅と敲打痕。一部が黒く変色。東壁沿いの床面出土。	78.0	86.0	45.0	390.0
第52図5	3次	26住	2		磨石類	安山岩			凸面と側縁部に敲打痕。石器製作用のハンマーか。埋土出土。	96.0	70.0	22.0	192.0
第52図6	3次	27住	2		磨石類	安山岩			26号住居281号ピット北側の埋土下層出土。表裏に浅い凹み。	127.0	144.0	63.0	1245.0
第52図7	3次	26住	2		磨石類	安山岩			平坦面と端部に敲打痕。埋土出土。	102.0	60.0	56.0	466.0
第52図8	3次	26住	2		磨石類	安山岩			四面に敲打痕。平滑な摩滅はみられない。埋土出土。	125.0	59.0	57.0	825.0
第52図9	3次	26住	2		磨石類	安山岩			敲打痕と平滑な摩滅。埋土出土。	92.0	83.0	42.0	406.0
第52図10	3次	26住	2	E	二次加工剥片	チャート	なし	なし	打面部に間接打撃で加工。打面を除去。石器(石匙)素材か	69.7	37.2	13.9	27.1
第52図11	3次	26住	2	F2	棒状礫	頁岩	なし	なし	間接打撃の工具か。	31.2	5.7	6.0	1.5
第53図4	3次	27住			磨石類	安山岩			表裏二面に顕著な凹みあり。	11.5	8.9	3.4	472.0

西ノ原B遺跡　石器観察表

図版番号	調査次	遺構	文化層	器種記号	器　種	石材	形態加工	刃部属性	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	重量 (g)
第53図7	3次	24住		A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	片脚折損。古墳時代住居の埋土出土だが、重複する26号住居に帰属する石器か。	18.3	12.4	2.8	0.3
第53図8	3次	24住		B	石錐	黒曜石	S'P	S'P	縦長剥片の縁辺部を加工した石錐。先端は折損。古墳時代住居の埋土出土だが、重複する26号住居に帰属する石器か。	24.5	10.0	4.9	1.0
第53図9	3次	24住		A1	石鏃	珪質頁岩	S'P	S'P	埋土出土。重複する縄文時代中期住居に属する石器と思われる。	17.3	13.5	2.9	0.6
第53図10	3次	24住		A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	丹念に両面加工した小型の石鏃。古墳時代住居の埋土出土だが、重複する26号住居に帰属する石器か。	12.8	11.5	2.8	0.3
第53図11	3次	24住		C1	削器	黒曜石	なし	S'P	縁辺摩滅。やや風化した円礫状の礫面を残す横長剥片の縁辺部に剥離と使用痕。古墳時代住居の埋土出土だが、重複する26号住居に帰属する石器か。	49.4	18.4	7.4	5.1
第53図12	3次	24住		B	石錐	黒曜石	なし	反S'P	やや風化した角礫状の礫面を残す縦長剥片素材の先端部分を剥離加工した石錐。古墳時代住居の埋土出土だが、重複する26号住居に帰属する石器か。	33.6	13.5	5.0	1.8
第54図1	3次	24住		D2	横形石匙	細粒砂岩	HD/刃潰し	素刃・MF	埋土出土。重複する縄文時代中期住居に属する石器と思われる。	68.9	100.7	15.7	102.3
第54図2	3次	24住		I1	打製石斧	中粒砂岩	HVD	HD	埋土出土。重複する縄文時代中期住居に属する石器と思われる。円礫状の礫面が残る。	90.4	50.4	23.9	139.3
第54図3	3次	24住		I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	欠損	埋土出土。器面風化が著しい。重複する縄文時代中期住居に属する石器と思われる。	99.7	48.0	16.0	82.7
第54図4	3次	24住			磨石類	安山岩			埋土出土。一部に平滑な磨り面が認められる。被熱赤変あり。側縁部に敲打成形痕あり。重複する縄文時代中期住居に属する石器と思われる。	71.0	72.0	47.0	386.0
第54図5	3次	24住			磨石類	安山岩			埋土出土。一部欠け。平滑な磨り面は認められない。重複する縄文時代中期住居に属する石器と思われる。	82.0	70.0	47.0	346.0
第54図6	3次	24住			磨石類	安山岩			埋土出土。重複する縄文時代中期住居に属する石器と思われる。やや平滑に摩滅している部分も認められる。	105.0	80.0	45.0	515.0
第54図7	3次	24住			石皿未成品	安山岩			埋土出土。石皿未成品か。重複する縄文時代中期住居に属する石器と思われる。	107.0	53.0	58.0	432.0
第54図8	3次	24住		F1	剥片	凝灰岩	なし	なし	垂直打撃の剥片。埋土出土。重複する縄文時代中期住居に属する石器と思われる。実測図右側の左下側縁には刃こぼれ状	58.9	29.1	11.0	12.3
第54図9	3次	24住		C4	使用痕剥片	黒曜石	なし	MF	側縁に微細な使用痕。古墳時代住居の埋土出土だが、重複する26号住居に帰属する石器か。	19.8	9.8	3.6	0.3
第55図3	4次	41住	5	I2	石核	ホルンフェルス	HD	なし	埋甕の東側の床面下で出土。埋甕を囲む配石の一部を構成。分厚い剥片を素材にした石核で、素材腹面を作業面にしてい	94.3	93.3	35.1	373.1
第60図2	2次	土坑330	7		石棒	安山岩			敲打整形した石棒もしくは石柱の破片。縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器破片とともに出土。	316.0	170.0	168.0	12800.0
第60図4	3次	土坑351	7		磨石類	安山岩			縄文時代中期中葉藤内式土器破片とともに出土。平滑な摩滅面はない。	97.0	78.0	45.0	444.0
第61図2	3次	土坑358	7	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	素刃	基部欠損の打製石斧。縄文時代中期後葉、井戸尻式土器破片とともに出土。	108.3	48.4	21.6	89.2
第61図3	3次	土坑373	7		磨石類	安山岩			敲打痕のみで、平滑な摩滅面はない。	85.0	68.0	71.0	510.0
第61図4	3次	土坑373	7		磨石類	安山岩			一面がレンズ状。平滑な摩滅ではない。	76.0	63.0	35.0	194.0
第63図4	1・2次	02住		A2	石鏃未製品	黒曜石	S'P	S'P	古墳時代の住居埋土出土。黒曜石の剥片を用いて押圧剥離で整形加工した石鏃。脚部は形成されていない。縄文時代に帰属するものと思われる。	18.0	9.9	3.8	0.6
第63図5	1・2次	02住		I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	HD	住居埋土出土。横長剥片素材の周縁にハードハンマーで連続的に加工を施した打製石斧。縄文時代に帰属するものと思わ	83.5	47.5	16.1	68.3
第66図1	1・2次	04住		A1	石鏃	黒曜石	S'P/鋸歯	S'P/鋸歯	古墳時代の住居埋土出土。	20.5	15.2	3.3	0.6
第66図2	1・2次	04住		I1	打製石斧	安山岩	HD	HD	埋土出土。4号住居に重複する7号住居、8号住居などの縄文時代中期中葉住居に属する石器と思われる。器面風化が著しく、打製石斧か不明確。	130.9	75.7	29.8	276.5
第66図3	1・2次	04住		I1	打製石斧	泥岩	HVD	HD	埋土出土。4号住居に重複する7号住居、8号住居などの縄文時代中期中葉住居に属する石器と思われる。	83.7	55.8	18.4	90.6
第66図4	1・2次	04住		I1	打製石斧	片麻岩	HVD	素刃	埋土出土。4号住居に重複する7号住居、8号住居などの縄文時代中期中葉住居に属する石器と思われる。	125.4	50.7	25.5	170.1
第66図5	1次	04住			磨石類	安山岩			埋土下層出土。実測図下面が非常に平滑に摩滅している。	77.0	59.0	52.0	304.0
第66図6	1・2次	04住		H1	石核	黒曜石	なし	HVD	垂直打撃の石核。角礫状で風化が進んだ礫面が大きく残る。古墳時代の住居埋土出土。	28.0	41.0	16.0	16.4
第66図7	1・2次	04住		H2	残核	黒曜石	なし	S'I	間接打撃の残核。古墳時代の住居埋土出土。やや光沢がある礫面が残る。	21.3	52.5	23.0	23.3
第66図8	1・2次	04住		F1	剥片	珪質頁岩	なし	なし	埋土出土。4号住居に重複する7号住居、8号住居などの縄文時代中期中葉住居に属する石器と思われる。	25.7	35.1	9.0	7.3
第66図9	1・2次	04住			垂飾	滑石	穿孔・研磨	なし	埋土出土。4号住居に重複する縄文時代前期初頭の3号住居に属する石器か。	26.1	9.4	6.2	1.8

西ノ原B遺跡　石器観察表

図版番号	調査次	遺構	文化層	器種記号	器　種	石材	形態加工	刃部属性	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	重量 (g)
第68図6	1・2次	11住		A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	古墳時代住居の埋土で出土。	19.8	13.7	3.3	0.6
第68図7	2次	土坑227	7		磨製石斧	緑色岩			磨製石斧基部破片。敲打の後、研磨整形。古墳時代住居の貯蔵穴で出土。本来は、縄文時代中期の所産であろう。	63.0	39.0	28.0	126.0
第71図4	1・2次	13住		A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	古墳時代住居の埋土で出土。鍬形鏃。	14.7	18.7	3.4	0.6
第71図5	1・2次	13住		I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	MF	13号住居と重複する14号住居などに属する石器か。	70.7	48.6	13.6	53.7
第71図6	1・2次	13住		I1	削器	ホルンフェルス	HVD	欠損	13号住居と重複する14号住居などに属する石器か。	78.7	44.7	12.3	47.9
第87図10	4次	方形周溝墓		A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	方形周溝墓の溝内で出土。先端欠損。縄文時代に帰属する石器と思われる。	18.6	15.4	3.8	0.7
第87図11	4次	方形周溝墓		C1	削器	珪質頁岩	叩折、NHD	S'P	濃紺色の珪質度が高い良質な石材。	36.4	54.4	12.7	21.7
第87図12	4次	方形周溝墓		B	石錐	黒曜石	S'P	S'P	つまみ部のある石錐。先端欠損。方形周溝墓溝から出土しているが、縄文時代に帰属する石器と思われる。	25.8	16.0	6.0	1.7
第87図13	4次	方形周溝墓		F1	剥片	珪質頁岩	なし	なし		58.1	33.3	10.7	13.7
第87図14	4次	方形周溝墓			磨石類	安山岩			平滑な磨り面は認められない。	115.0	74.0	51.0	500.0
第90図4	4次	平安竪穴			砥石	凝灰質流紋岩			西壁際で出土。四面が非常に平滑に摩滅しており、線条痕が観察される。実測図上面は荒い成形面が残る。下方は折損。	56.0	34.0	32.0	66.0
第96図6	4次	平安竪穴		B	石錐	黒曜石	S'P/急角度	S'P/急角度	先端欠損。平安時代住居の埋土出土だが、縄文時代に帰属する石器と思われる。素材面が残る。	28.1	12.1	6.5	1.4
第96図7	4次	平安竪穴		I1	打製石斧	頁岩	HVD	HD・土づれ痕	埋土出土。亜円礫状の礫面が残る。刃部と側縁部に土ズレ痕と思われる摩滅がある。縄文時代の石器と思われる。	73.5	54.6	13.2	51.2
第96図8	4次				砥石	凝灰質流紋岩			埋土出土。三面に整形痕が残り、一面は非常に平滑に摩滅している。図上面にも整形痕がある。	52.0	24.0	16.0	28.0
第96図9	4次	平安竪穴			磨石類	安山岩			全体に器面が風化しているが、顕著な敲打痕と平滑な摩滅面が認められる。縄文時代の石器と思われる。	112.0	83.0	35.0	390.0
第97図6	4次	平安竪穴			敲石	安山岩			住居北東角の埋土下層で出土。割れて欠損している部分以外の側面は、滑らかに整形されている。本住居に属する石器なのか、縄文時代の石器の混入か、にわかに判断できない。	110.0	93.0	47.0	800.0
第103図1	4次	土坑380	7	I1	打製石斧	頁岩	HVD	欠損	刃部欠損の打製石斧。	83.3	49.1	20.6	103.9
第105図2	1・2次	土坑009	7	G	楔形石器	細粒凝灰岩	HVD	なし	藤内式土器破片とともに出土。	104.4	38.0	9.4	56.2
第105図3	1・2次	土坑026	7	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	完形品。	21.1	16.3	4.4	0.9
第105図4	1・2次	土坑040	7	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	脚部欠損。長方形幅広の押圧剥離。3㎜。	27.4	16.1	4.5	1.1
第105図7	1・2次	土坑080	7		石鏃	黒曜石	S'P	S'P	脚部欠損。貝殻状の押圧剥離。	23.4	13.5	3.5	0.6
第105図9	1・2次	土坑082	7	C1	削器	珪質頁岩	なし	S'P/鋸歯	横長剥片の末端辺にHPで加工L。打面は叩折。縄文時代中期中葉の土器破片とともに出土。	50.4	76.6	16.5	51.1
第105図12	1・2次	土坑177	7	H2	残核	黒曜石	なし	HD	剥片素材の小形の残核。	39.2	20.9	11.9	5.7
第105図14	1・2次	土坑184	7	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	脚部欠損。幅広の押圧剥離。3.4㎜。	21.6	14.5	3.8	0.7
第106図5	1・2次	土坑245	7	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	完形品。素材面を残す。	18.2	14.0	3.6	0.5
第106図7	1・2次	土坑249	7	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	完形品。素材面を残す。	22.4	15.7	3.5	0.8
第106図12	1・2次	土坑274	7	I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	HD	完形品。側縁部は潰れている。	130.1	53.9	24.5	184.4
第107図11	3次	土坑356	7	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	両脚先端欠損。貝殻状の押圧剥離。縄文時代中期後葉、井戸尻式土器破片とともに出土。	18.7	16.0	5.7	1.2
第107図13	3次	土坑357	7	I1	打製石斧	砂岩	HVD	MF	刃部が大きく欠損している打製石斧。縄文時代中期中葉土器破片とともに出土。	99.9	45.2	16.5	74.7
第107図14	3次	土坑357	7	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	欠損	打製石斧未製品か。縄文時代中期中葉土器破片とともに出土	93.3	43.8	19.7	79.0
第108図2	3次	土坑361	7	D2	横形石匙	珪質頁岩	HD/刃潰し	HD/ 平坦、MF	つまみ部は刃潰し。裏面に平坦加工で刃部作出。刃部端には使用による摩滅あり。	52.0	74.0	16.7	53.4
第108図3	3次	土坑361	7		磨石類	安山岩			一面が平坦。平滑な摩滅面はない。	60.0	64.0	42.0	168.0
第108図5	3次	土坑362	7	E	二次加工剥片	珪質頁岩	HD	なし	左側辺が主要剥離面。石器ブランク。縄文時代中期中葉土器破片とともに出土。	83.1	45.2	16.4	53.9
第108図6	3次	土坑363	7	I1	打製石斧	頁岩	HVD	HD	周縁加工の打製石斧。	83.7	51.0	15.5	60.0
第108図7	3次	土坑364	7	I1	打製石斧	頁岩	HVD	HD	刃部に大きなMFの残る打製石斧。	113.6	52.0	21.4	123.7
第108図8	3次	土坑365	7	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	石鏃未製品か。礫面が残る剥片素材の縁辺部に剥離調整。基部はえぐり加工。	26.3	18.7	5.6	1.5
第108図9	3次	土坑365	7	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	極小の石鏃。	17.2	12.1	4.6	0.6
第108図10	3次	土坑376	7	I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	HD	素材面を大きく残す打製石斧。	104.9	47.2	18.6	94.9
第108図11	3次	土坑377	7	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	HD	刃部が大きく欠損した後に再生を試みた打製石斧。	94.3	57.0	31.6	201.5
第109図7	1・2次	ピット　014	8	D1	縦形石匙	珪質頁岩	角度、S'P/	S'P	縦形石匙。素材は平坦打面。縄文時代前期初頭の住居柱穴から出土。	53.3	29.5	10.1	12.8
第109図8	1・2次	ピット　037	8	C1	削器	珪質頁岩	なし	反S'P	垂直打撃の剥片素材。縄文時代前期初頭の住居の柱穴から出土	60.2	36.4	12.3	23.2
第109図9	1次	ピット048	8		磨石類	安山岩			縄文時代前期初頭の住居の柱穴から出土。敲打痕。平滑な摩滅面はない。	71.0	68.0	51.0	268.0

西ノ原B遺跡　石器観察表

図版番号	調査次	遺構	文化層	器種記号	器　種	石材	形態加工	刃部属性	所見	長さ (mm)	幅 (mm)	厚み (mm)	重量 (g)
第109図10	1・2次	ピット　086	8	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	極小の石鏃。1号掘立柱建物柱穴出土。縄文時代に帰属する石器と思われる。	15.0	13.6	3.8	0.4
第109図11	1・2次	ピット　140	8	B	石錐	黒曜石	S'P	S'P	素材は両極剥片。縄文時代中期中葉の14号住居柱穴で出土。	33.8	9.8	7.0	2.0
第109図12	1・2次	ピット　142	8	D1	横形石匙	頁岩	HVD	S'P/鋸歯	HDの横長剥片素材。縄文時代中期中葉の住居柱穴から出土。亜円礫状の礫面。	47.5	92.8	16.5	66.4
第109図13	1・2次	ピット　149	8	I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	HD	刃部は潰れている。柱穴と思われるピット出土。	88.5	45.6	22.0	96.3
第109図14	1・2次	ピット　151	8	I2	打製石斧未製品	砂岩	HD	欠損	刃部欠損の大形打製石斧。縄文時代中期中葉の住居の柱穴出土。	136.6	42.9	27.5	196.1
第110図3	1・2次	ピット　205	8	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	HD	風化の進んだ石材。縄文時代中期中葉の住居柱穴から出土。	79.0	49.1	12.2	60.8
第110図4	3次	ピット262	8	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HD	HD	風化の進んだ石材。縄文時代中期中葉と思われる土坑から出土。	90.7	49.3	15.3	58.0
第110図5	3次	ピット278	8		磨石類	安山岩			全体が平滑に摩滅した磨石。一部が黒色に変色。縄文時代中期住居の柱穴から出土。	43.0	60.0	38.0	83.0
第110図6	3次	ピット279	8	C1	削器	珪質頁岩	なし	S'P	横長剥片の末端辺に押圧剥離で刃部形成の削器。縄文時代中期住居の柱穴出土。	39.5	65.2	12.7	24.8
第110図7	3次	ピット285	8	C1	削器	黒曜石	S'P	S'P	右側辺に幅広の押圧剥離で刃部形成。風化した亜角礫状の礫面。縄文時代中期初頭の26号住居内のピット出土。	55.2	24.4	14.2	10.6
第110図8	4次	ピット429	6		磨石類	安山岩			敲打痕と平滑な摩滅面。一部が被熱して黒色に変色。破砕によるひび。縄文時代中期末葉の住居柱穴出土。	116.0	67.0	42.0	555.0
	3次	27住	2		磨石類	安山岩			27号住居268号ピット間の埋土下層出土。表裏に敲打による凹みあり。	115.0	88.0	34.0	472.0
	4次	土坑389	7	C1	削器	珪質頁岩	なし	S'P	側辺に押圧剥離で刃部形成の削器。縄文時代前期初頭の土器破片とともに出土。	60.7	28.1	13.2	16.6
	4次	土坑404	7	A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	完形品。押圧剥離の巾は広い4.1㎜。縄文時代中期末葉曽利式土器破片とともに出土。	26.1	14.9	4.4	1.2
	1・2次	土坑339	7	I2	剥片	安山岩	HD	HD	裏面に素材面を大きく残す。	80.9	47.8	11.8	41.2
	1・2次	土坑339	7	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	欠損	刃部欠損の打製石斧。縄文時代中期中葉の土器破片と出土。	78.3	47.7	25.2	92.3
	1・2次	土坑341	7	I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	欠損	裏面に素材面を大きく残す打製石斧。縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器破片とともに出土。	102.4	53.8	18.9	96.6
	1・2次	土坑345	7	I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	欠損	刃部欠損の打製石斧。	116.3	46.4	22.9	137.2
	1・2次	トレンチ010		A1	石鏃	珪質頁岩	S'P	S'P	10号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。	18.3	13.3	3.4	0.6
	1・2次	トレンチ013		I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	欠損	13号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。刃部折損。	80.8	51.8	19.1	91.1
	1・2次	トレンチ014		I1	打製石斧	ホルンフェルス	HVD	欠損	14号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。風化している。	92.9	47.7	18.2	81.2
	1・2次	トレンチ014		C4	使用痕剥片	砂岩	なし	MF	14号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。風化している。	69.2	32.6	19.0	31.6
	2次	トレンチ017			磨製石斧	緑色岩			17号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。刃部側の折損面には不規則な剥離。基部側も敲打痕。折損した磨製石斧を石器製作ハンマーに転用した	84.0	45.0	25.0	145.0
	1・2次	トレンチ005		I1	打製石斧	頁岩	HVD	HD	5号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。亜円礫状の礫面が大きく残る。	92.0	32.7	17.3	67.4
	1・2次	トレンチ005		I1	打製石斧	頁岩	HVD	素刃・MF	5号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。風化している。	89.3	48.9	19.4	92.3
	1・2次	トレンチ006		A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	6号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。	16.9	15.0	2.1	0.4
	1・2次	トレンチ007		I1	打製石斧	頁岩	HVD	素刃・MF	7号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。風化している。	90.9	40.4	17.9	79.5
	1・2次	トレンチ007		C4	使用痕剥片	頁岩	なし	MF	7号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。風化している。	72.9	32.3	10.7	24.6
	1・2次	トレンチ008		I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	素刃・MF	8号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。小型の打製石斧か。刃部には円礫状の礫面が残る。	69.8	39.3	11.0	36.2
	1・2次	トレンチ008		I1	打製石斧	硬砂岩	HD	素刃・MF	8号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。剥離は粗雑で打製石斧か判断に迷う。	80.5	46.0	18.2	63.9
	1・2次	トレンチ009		A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	9号試掘ﾄﾚﾝﾁ出土。片脚欠損。	18.1	13.9	4.8	0.7
	3次	土坑390			磨石類	安山岩			敲打痕のみで、平滑な摩滅面はない。	84.0	74.0	55.0	448.0
	1・2次			I1	打製石斧	頁岩	HVD	HD	遺構外出土。	97.8	41.8	17.1	92.9
	1・2次			A2	石鏃未製品	黒曜石	S'P	S'P	遺構外出土。素材剥片の厚みが減らせずに製作を放棄した未成品か。	24.4	17.1	7.2	2.2
	1・2次			A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	遺構外出土。完形品。	18.7	13.9	3.4	0.6
	1・2次			A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	先端が欠損した石鏃。遺構外出土。	16.4	16.6	5.9	1.2
	1・2次			A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	先端が欠損した石鏃。遺構外出土。	16.8	14.9	3.5	0.6
	1・2次			D1	縦形石匙	黒曜石	S'I/急角度	素刃	素材剥片の縁辺部のみを加工した石匙。風化した礫面が残る。遺構外出土。	36.7	22.6	8.6	5.2
ボツ	1次				砥石	安山岩			白く脆い材質の安山岩系石材。矢柄研磨器のように筋状に摩滅痕がある。	35.0	36.0	12.0	18.0
	3次			I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	欠損	基部が折損した打製石斧。遺構外出土。一部に鉄分が付着。	117.5	57.8	27.6	170.9
	3次			H2	残核	珪質頁岩	HD	HD	遺構外出土。	39.6	41.2	17.8	28.2
	3次			I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	欠損	刃部が折損した打製石斧。遺構外出土。	90.3	49.3	20.2	111.7
	3次			I1	打製石斧	硬砂岩	HVD	HD	遺構外出土。	95.6	52.2	21.6	127.9
	3次			I1	打製石斧	頁岩	HVD	素刃・MF	遺構外出土。	89.1	52.5	27.9	115.4
	3次			I1	打製石斧	頁岩	HVD	HD	遺構外出土。	97.2	40.9	15.5	73.1
	3次			A1	石鏃	黒曜石	S'P	S'P	完形の小型石鏃。遺構外出土。	14.1	10.5	2.5	0.3

西ノ原金属製品

処理番号		図版番号	実測番号	遺構名	種類	長さ mm	幅 mm	厚み mm	重量 g	備考
33322	053-05	第53図5	93	PJ-27 一括	鎌？	(20.0)	(35.0)	1.5	12.1	断片
33328	066-10	第66図10	99	4次 PT31	不明	(27.0)	(6.0)	1.0	1.6	断片
33326	071-07	第71図7	97	13住 №459(武川)	不明	(15.0)	(35.0)	2.0	9.1	断片
33320	080-03	第80図3	91	PK-34 1	不明	(20.0)	(48.0)	3.0	20.7	断片
33323	086-01	第86図1	94	PT-320 HB内	刀子	95.0	14.0	3.0	28.1	大型破片
33327	090-05	第90図5	98	4次 PH29・PK30	不明	(10.0)	(20.0)	1.5	2.5	断片
33318	096-10	第96図10	89	PH-35 1	鉄鏃	123.5	21.0	9.0	6.1	完形
33324	109-02	第109図2	95	DK-398	不明	(3.9)	2.5	2.0	6.2	断片

(　)は現存の大きさ